

鹿児島県立川辺高等学校
東京同窓会



四十周年記念特別号

二〇一六年（平成二八年）十月



校舎に川辺高校のロゴ & 懸垂垂れ幕の新設



神戈陵尚学舎に新しい看板 & 座右の銘のリニューアル



東京同窓会四十周年記念誌によせて

東京同窓会会長
昭和三四年卒 大平 政弘

東京同窓会は昭和五十二年十一月十日九段の私学会館で第一回が開催され、今年第四十回を迎えた。第一

回開催の二年前の準備委員会にて、室屋さんが「母校の原口校長は高校の同期生で、彼から二年後の高校創立八十周年に向けて卒業生の支援組織として東京にも同窓会を作って欲しい、と頼まれた」と発言されたことを覚えている。

東京同窓会の目的は、会員相互の親睦と母校の発展に寄与すること、にあるが、近年の活動状況は十分とはいかぬまでも、まずまずの実績かと思う。会員の皆様のご協力ご努力に感謝申し上げたい。

御高承のとおり、母校は、近隣各校と同様に、地域の人口減の影響で生徒数の確保に苦しんでいるが、教職員や地域の皆様のご努力によって、学習やスポーツはじめ教育効果は上がっている。何よりも、生徒のマナーの良さをよく耳にするが、嬉しいことである。

今後とも、東京同窓会として母校や後輩学生に何の貢献ができるのか、を考えて行きたいと思う。

東京同窓会も、「少子高齢化」の現象が顕著になってきている。関東へ来る母校の卒業生はひと桁になってしまい、プライバシー保護の問題もあって卒業生の所在を知ることさえ難しい。四十年前の第一回の総会出席者は三八〇名との記録があるが、今では夢のような数字である。今後、同窓生相互の親睦にもっと貢献できるような策が必要かと思う。

さて、この東京同窓会四十周年記念誌は、南谷副会長をはじめとする役員諸君や大勢の会員の皆さんの協力で完成した。ここ十年の活動の思い出などお楽しみいただきたい。また、ご寄稿してくださった方、知恵を貸してくださった方、広告をしてくださった方、そして、編集作業に汗を流してくださった方………。皆さんに心から感謝申し上げます。

目 次

東京同窓会四十周年記念誌によせて 大平政弘(昭和三四年卒)……………3
(東京同窓会会長)

四十周年に寄せて 鯨坂悟郎(昭和三二年卒)……………5
(東京同窓会前会長)

四〇周年に寄せて ―東京同窓会の現状と課題―……………5
 小原東洋明(昭和三八年卒)
(副会長・幹事長)

母校創立百二十周年に向け校友のさらなる団結を!!……………6
 大坪憲市(昭和四一年卒)
(同窓会会長)

「母校を上げ潮の流れに」 東郷孝仁……………7
(川辺高等学校校長)

夏休みの川辺高校 渡辺裕介(教諭・同窓会係)……………7

母校の存続は生徒数の確保 鯨坂政弘(昭和三八年卒)……………8

第40回総会 輝かしい歴史と伝統を次の十年に……………9
繋がるように祈念して 四十周年を祝う
 森山昭利(昭和四一年卒)

第40回総会 感動をありがとう!……………10
四〇周年記念特別行事 峯苦稔三(昭和四一年卒)

年度幹事より 山本 朗(昭和四八年卒)……………11

陵友だより……………12

俳壇・歌壇……………26

母校だより……………28

事務局からのお知らせ……………30

広告……………32

第40回 川辺高等学校東京同窓会……………37
総会・懇親会出席者ご芳名

役員・評議員名簿……………39

第40回総会・懇親会風景 我ら神戈陵同窓生……………40

神戈陵アーカイブ……………45

編集後記……………55



四十周年に寄せて

東京同窓会前会長
昭和三十二年卒 鯨坂 悟郎

東京同窓会会員の皆様には、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

去る六月新宿にて第四十回東京同窓会が開催され、大変な成功裏に終わりましたこと衷心よりお慶び申し上げます。私は都合により出席できませんでしたが、その盛況ぶりを各方面より伺い、我が事のように喜んでおります。これもひとえに、大平会長を中心に執行部や評議員・学年幹事様の熱意とご努力の結果であり、最大の敬意を表したいと思います。

思えば、東京同窓会は昭和五年に旧制中学の大先輩方を中心に発起され、「会員相互の親睦をはかり母校の発展に寄与すること」を目的に創設されたものです。あれから四十年、偉大な先輩方の情熱とご指導によりその精神は脈々と受け継がれ今日に至っております。すでに鬼籍に入られた方も多く、関東在住の卒業生も徐々に減少している中、毎年二百名規模の総会は壮観であります。勿論会員の皆様は絶大なご協力があってのものですが、四十年の永きにわたり快く事務局を引き受

けて頂いている盈進社があったればこそであり、前社長の故下園市男氏も含め深甚なる謝意を表します。

母校は少子化の流れの中、校長以下生徒募集や学力向上に日夜懸命に取り組んでおります。又本部同窓会も大坪会長以下何とか母校の活性化のためにと奮闘中であります。東京同窓会も今まで以上に貢献して行こうではありませんか。

私は二年前に生まれ育った川辺町上山田(旧勝目村)に引き揚げて参りました。人は変われど故郷は今も変わらず、四季の移ろいの中で、草花や自然の僅かな変化に、懐かしく心を動かされることしばしばです。健康のためウォーキングを励行していますが、歩行コースには同窓会で大変お世話になりました故川口幹夫氏、故大倉野貞俊氏、故本田雄郎氏、故鯨坂秀明氏、故大崎ゆみ子さんのご実家やゆかりの跡があり、いつも在りし日のお姿を偲びつつ心の中で会話をしながら歩いております。最後になりますがお会員の皆様の益々ご健勝とご多幸を祈り四十周年に寄せる言葉と致します。

四〇周年に寄せて

東京同窓会の現状と課題

副会長・幹事長
昭和三十八年卒 小原 東洋明

東京同窓会四〇周年記念第四〇回総会・懇親会は、平成二八年六月一八日、新宿ワシントンホテルにて、多数の来賓のご臨席を仰ぎ、盛大に執り行われましたことを、会員の皆様にご報告いたします。

ご出席を頂きました会員の皆様、準備の為に奔走頂いた役員・評議員の皆様・事務局をご担当頂いている(株)盈進社様のご協力に感謝申し上げます。

東京同窓会の節目として一〇年毎に執り行われる周年記念の総会・懇親会は、輝かしい歴史と伝統を築き上げてきた先輩たちを想い、過去を学び、これからの一〇年に思いを馳せるいい機会を与えてくれます。

同窓会活動が機能するためには、まず同窓会を構成する会員があること、そして組織がありその組織が機能していること、さらにそれを支える活動の拠点の確保、活動を裏付ける資金があることが条件になります。

幸いにも、東京同窓会には諸先輩が築き上げて来られた幹事会・評議員会という立派な組織があります。ここ数年総会・懇親会の出席者数は回復傾向

にありますが、まさに幹事会・評議員会の活動の活性化がその要因と考えられます。

また活動拠点は(株)盈進社様のご厚意により成り立っているとはいえ、確保されています。残りの会員の確保、活動資金の確保が東京同窓会にとっての課題となります。

会員の動向と新規会員の確保

現在の会員数は一一〇〇名弱となっています。毎年、転勤・帰省・鬼籍に入られた方々などにより、三〇名ほど減少しています。新規会員の獲得がない限り一〇年後には会を維持できない数となってしまいます。

会員の二〇年毎の年齢別分布(図参照)をみますと、昭和五〇年代以降の会員数が極端に少なくなっています。その要因は数々あり、議論は別の機会に譲ることにしますが、とにかく昭和五〇年代以降の会員獲得が喫緊の課題となっております。

役員会では、この対策としてホームページを立ち上げ情報の発信に努めます。さらにフェイスブック等の新しい

ツールを使って若年層会員相互のコミュニケーションを図り、会員の確保に努めます。

総会懇親会出席率目標を三〇%に!

一般的に、全卒業生を対象にした同窓会の出席率は四〜七%と言われています。これに対して東京同窓会の出席率は二〇%弱の二〇〇名程度で推移しています。

一方、同期会となると、卒業後数十年経っても三〇%前後の出席率を確保できていると言われています。

同窓会はその基本単位である同期会が連綿として繋がって成り立っていることから、三〇%前後の出席率は実現可能な数値であろうと思われる。今年の四〇周年記念総会・懇親会においても一〇学年ほどはその数値を達成しているのです。

出席者比率の向上は、この同期会の出席率を分析することによって達成できるであろうと考えています。

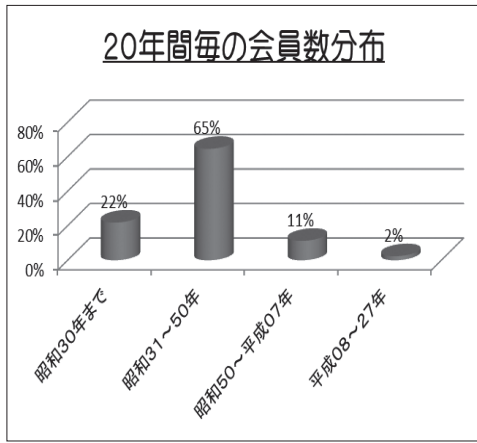
会費納入のお願い

当会の財務基盤は、会員の皆様からの年会費、会報誌広告、寄付金、各事業年度で遣り繰りした繰越積立金で成り立っています。

最も基本になるのは年会費です。平成一三年度の年会費納入率が三五%で

あったのに対し、数々の工夫で平成一五年度の納入率は五〇%を超えるまでになりました。しかしながら、まだ半数にすぎません。収入に応じた同窓会活動にならざるを得ず、十分な活動に支障をきたしています。また母校支援のための資金捻出にも苦勞しています。せめて国民年金の納付率七〇%前後が達成できると、十分な活動費と母校支援の資金が調達できます。

これには、行ってみたいと思う同窓会魅力ある情報発信が必要になります。以上、東京同窓会の課題について報告させていただきましたが、輝かしい歴史と伝統を次の一〇年に繋ぎ、新しい歴史を積み重ねていくためには、この課題を達成することだと思えます。四〇周年記念総会・懇親会は、課題を確認する良い機会となりました。



**母校創立百二十周年に向け
校友のさらなる団結を!!**

同窓会会長 大坪 憲 市
昭和四一年卒

東京同窓会四十周年記念総会は二百名近い同窓生が集結し盛大に開催されましたこと、心からお慶びし、お祝い申し上げます。

これまで東京同窓会の発展にご尽力を賜った同窓生の皆様、役員の皆様、そして事務局をお引受頂いている株式会社盈進社様に深く敬意と謝意を表す次第でございます。

少し心を躍らせながら、母校の現状を報告できますことを大変うれしく思います。

二八年春の卒業生九〇名の内、国立大合格者は二九名、昨年度卒二名の計三一名を輩出することが出来ました。国公立大合格者比率は実に三二%を超えるまでになり、百周年の時以上の好成績を収めることが出来ました。

部活動でも、なぎなた部が全国大会団体三位、水泳部でも下久保裕也君が九州大会出場、野球部も夏の大会三回戦まで勝ち進みました。

かわなべ青の俳句大会において学校賞を受賞(十年連続・十三回目)いたしました。新聞配達に関する全国エッセイコンテストに茅野琴江さんが入選するなど、学業に部活動に上げ潮ムードいっぱいになっています。在校生の

頑張り、先生方の熱心なご指導のためのものであります。

今年四月に就任された東郷校長先生は、就任早々から川辺高校開設当初からの歴史を勉強くださり「このような素晴らしい学校を如何にして発展・存続させるか」という事に、前向きに全力で取り組んでおられます。

開校当時から資料を一堂に集めた同窓会資料室を整備し、在校生・同窓生・地域の方々に公開することにいたしました。輝かしい歴史と伝統を、在校生には力に変え、同窓生と地域の方々には連携を深めて貰うことを期待しています。

西暦二千二十年四月には、母校百二十周年を迎えます。只今、百二十周年記念事業についてご意見を取り纏めているところでもあります。

奨学金制度・神戈陵尚学舎のさらなる充実、学校の景観・合宿所の設置等々、ご意見・ご要望をお聞かせ願いたくお願い申し上げます。

終わりに、東京同窓会が四十周年を契機として、さらなる飛躍を遂げんことを願いますとともに、会員の皆様方のご健勝とご活躍を祈念いたします。



「母校を上げ潮の流れに」

川辺高等学校校長 東郷 孝仁

川辺高等学校東京同窓会結成四十周年並びに会報誌四十号発刊おめでとうございます。六月の総会では大変お世話になり、深く感謝申し上げます。

さて、今年の夏も暑い夏でしたが、南九州市では恒例の知覧ねぶた祭り、川辺祇園祭り、岩屋公園でのあゆフェスタ等の催事があり、川辺高校生も多数参加して地域貢献の活動を行っていました。

また、なぎなた部は全国高校総体で三年生二人が個人戦第五位入賞とベスト一六に輝きました。甲子園大会県予選で野球部は一勝を上げ、三回戦で鹿児島南高校に六対五で負けましたが、粘り強く戦う好試合でしたし、音楽部の吹奏楽コンクールも結果は銀賞でしたが、確かな技術を伴った迫力ある素晴らしい演奏でした。これらの部活動を通じて一人一人の生徒の人間としての成長を感じて嬉しく思っているところです。

今年の文化祭では一年生全員で、ペットボトルキャップ約二万個を使っ、大きな「くまもん」のモザ

イク壁画を作成しました。熊本への応援エールを送りたいという生徒の思いが伝わる素晴らしい展示でした。ところで、今年四月の赴任後、正門付近の整備を図ってきました。校

訓碑文、尚学舎前の碑文を洗浄清掃し、碑文の刻字の金箔化、碑文・正門周辺の草木の剪定をしました。校舎側壁に、「全国第三位なぎなた選抜大会」、「県教委指定・進学指導重点支援校」の二本の懸垂幕、「鹿児島県立川辺高等学校」の校名ロゴを設置しました。生徒・職員の誇りや愛校心を育み、学校がよりよく変化してきているメッセージとして発信したい思いからであります。同窓会の皆様の暖かいご支援の賜です。

最後になりますが、東京同窓会の皆様におかれましては、平素から母校の教育活動に深い御理解と多大な御支援を賜っておりますことに対し、厚く御礼申し上げます。「母校を上げ潮の流れに」乗せて、より一層奮励努力致す所存ですので、今後ともよろしく願います。



夏休みの川辺高校

教諭(同窓会係) 渡辺 裕介

東京同窓会会報誌「神戈陵」四〇周年記念誌発行を心からお慶び申し上げます。またかねてより皆様には温かいご助言・ご支援を頂きましてありがとうございます。

さて、三年生中心ではありませんが、夏休みの川辺高校についてお知らせいたします。夏休みは全学年で補習が行われ、生徒は真剣に学業に励み、学校は活気にあふれていました。夏休みは生徒にとって学習に集中しつつ、進路に向けてじっくり考えられる時期です。三年生はもちろん、一年生のうちから



大学等のオープンキャンパスに参加する姿が見られました。本校では、夏休み中に中学生一日体験を二度開催し、中学生・保護者がたくさん参加してくれました。当日は生徒会が中心となって学校紹介やスタンプリーなどを行いました。中学生は体験授業や部活動見学にも参加し、楽しんで体験してくれました。また、二年生は県内の高校二年生を対象に行われるグレードアップゼミに参加しました。他校の生徒と一緒に授業を受け、たくさん刺激を受けて帰ってきました。そして、三年生には東京同窓会副幹事長の内村哲也氏に企業がどのような人材を求めているのか、面接官から見た面接のポイントなどについて講義していただきました。そのポイントの中には学生のうちに鍛えられるものが多く、受験を間近に迎える三年生にとって大変有意義な時間となりました。補習がない期間には一・二年生は部活動やボランティアなどに励み、三年生は尚学舎に来て自習に打ち込んでいました。三年生はこれからそれぞれの進路実現に向けて、本格的に受験シーズンに突入します。今後とも母校・後輩へのご支援をよろしく願います。



母校の存続は生徒数の確保

昭和三八年卒 鱒坂政弘

川辺高等学校東京同窓会四〇周年を心からお慶びし、お祝い申し上げます。

私は、第四〇回を迎えた川辺高等学校東京同窓会に、川辺高校在職中の生徒さん達からお招きを頂きました。教職にあつた者としてこの上もない喜びであります。

会場に入りますと、在職中の懐かしい生徒たちに迎えられ、感激の握手を交わすことが出来ました。総会には、同級生や先輩、後輩の方々等との楽しい語らいの場がありました。皆さんの母校やふるさとを語る姿が印象的でした。

私は七十二歳の今、自身の健康管理はもとより、毎日のウォーキング・家庭菜園・釣り・旅行等で楽しい日々を精力的に動きまわっています。そんな中で、ふるさとや母校のために何かできることがあればと、川辺町出身者で作る「かごしま川辺会」の会長として、勝目村出身者で作る「大谷会」の副会長として、川辺高校同窓会の役員として、充実した日々を

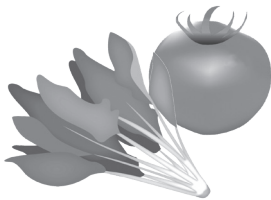
過ごしております。

母校は、生徒数激減で統廃合の対象校になっておりますが、菊野先生、大坪同窓会会長さんをはじめとして、存続はもとより発展の方向へとのことでご尽力をされておられます。

東京同窓会の皆様、母校の存続は生徒数の確保です。親・兄弟姉妹・知人等へ、子供さんやお孫さんの方の入学をすすめていただきたく願っております。

東京同窓会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝を心から祈念申し上げます。

— 感謝 —



美術部生徒作品



庵と友



空想の旅

第40回会 総

輝かしい歴史と伝統を次の十年に 繋がるように祈念して 四十周年を祝う

昭和四十二年卒 森山昭利

梅雨時にも関わらず、快晴に恵まれた平成二八年六月一八日(土)、新宿ワシントンホテルで第四十回川辺高等学校東京同窓会総会が開催されました。午前十一時からの開会予定でしたが、早くも九時半くらいから、参加者が集まり始めました。最終的には、来賓を含めた参加者数は一九五名となりました。

今年の総会は、歌手の川口京子さんによる四十周年記念特別コンサート



トで幕を開けました。用意された席はあつという間に満席となり、予備の椅子を出したにもかかわらず、立っている参加者も出るほどでした。川口さんは、軽妙な語りを交えながら、童謡、唱歌、民謡と多彩な歌を、力強く伸びやかな声で歌い、参加者は心を洗われるようなひと時を過ごすことができました。

なお、川口さんは、わが川辺高校の大先輩であり、NHKの会長を務められた、故川口幹夫氏のご長女です。今回は御父君の出身校の同窓会ということで、お忙しい中での出演をご快諾いただいたものです。

続いて総会会場において、昭和三四年卒の泊昭八郎氏による四十周年記念居合道演武が披露されました。同氏は「無双直伝英信流居合兵法」の範士で九段の腕前です。真剣での演武とあって、場内はシンとして水を打ったように静かな雰囲気のおかげで十分ほどの短い間に六本の型が披露されましたが、その迫力に参加者全員が圧倒されたようです。

その後、大平会長を議長として総会の議事に移り、恒例の物故者への

黙祷に続き、会長あいさつ、担当役員による会務報告、会計報告、会計監査報告が行われ、議案のすべてが参加者全員から異議なく承認されました。

なお、今年は四十周年記念ということで、東京同窓会へのひとかたならぬ貢献を謝して、事務局を引き受けて頂いている下園典子 盈進社社長に、大平会長から感謝状を贈呈しました。

続く懇親会では、十五名の来賓の方々が紹介されたあと、大坪憲市本部同窓会会長より、東京同窓会現状などの紹介を含めたご挨拶をいただきました。

さらに、今年着任された東郷孝仁校長先生が、前任の小屋敷校長先生との関係や平成二八年の大学合格者数が、大きく好転したことなどを紹介されるとともに、川辺高校に対する熱い思い入れも語って下さいました。

その後、新しい試みとして、川辺高校の生徒、職員全員が出演するDVD(母校だより)が上映されました。各出演者が持っている紙に一文ずつ歌詞が書かれ、音楽部が演奏する曲に合わせて画面が変わっていく、という斬新な演出はまさに「今どき」のスタイルでした。歌詞の内

容も曲も東京で聞いてもおかしくないようなもので、総会に参加された諸先輩の多くが持っていた川辺高校生のイメージを、大きく変えたのではないのでしょうか。

続いて、今年卒業の新入会員の紹介、今総会の担当年度幹事の紹介があり、昭和二三年卒の田口精一先輩の音頭で、参加者が待ちかねていた乾杯を行った後、年次別に分かれたテーブルでの懇談に移りました。

懇談のテーブルには、いつもの刺身こんにやく、つけ揚げが並び、ホテルの料理も次から次へと運ばれると、カウンターで出されるイモ焼酎も加わって、あちこちのテーブルからにぎやかな話し声が沸き上がりました。

宴たけなわにさしかかり、有志の女性陣があでやかな着物やハッピー姿で、テーブルの間を縫って踊り始めると、負けじと元氣いっぱい男性陣も踊りの輪に加わり、会場は熱気の渦に包まれました。

懇親会も最後に近づいて、新旧の校歌を会場全員で斉唱し、昭和二七年卒の君野満明先輩が音頭を取っての万歳三唱のあと、昭和三六年卒の南谷副会長による閉会のあいさつをもって四十周年記念東京同窓会総会・懇親会は閉会しました。



第40回会 第 総

感動をありがとう!

四〇周年記念特別行事

昭和四一年卒 峯 苦 稔 三

東京同窓会四〇周年記念特別行事として、歌手川口京子さん、ピアノ長谷川美佐子さんによる「記念特別コンサート」と無双直伝英信流居合兵法 範士九段の泊昭八郎氏（昭和三四年卒）の「記念居合道演武」を企画したところ、大変な好評を得ました。出演者に対して、心より感謝

申しあげます。

「記念特別コンサート」では、川口さんの素敵な語りを交えながら八曲が披露されました。ピアニストの長谷川さんとの息の合った、そして心に響き心の奥に染みわたっていくような歌声で、「若葉」で始まり「故郷」で終わり八曲があつという間の時間でした。会場では一緒に口ずさんでいる人もいました。四曲目の「碧瑠璃の空に」の曲はお父様が鹿児島の旧制第七高等学校時代当時二〇歳で作詞された曲で、お父様の思い出を語りながら一段と心をこめて歌いあげていただきました。このお父様は私達の大先輩で元NHK会長 故 川口幹夫氏です。

五曲目では「鹿児島小原節」の裏唄の「デコンバタケデトゲンネコツシヤンナトヒトガ ミチヨモンド ワロモンドトトト」も披露され、会場が笑いにつつまれました。

参加者からは「唄から情景が浮かび、涙が出てきました」忘れていた唄

を思い出させてくれて、つい一緒に唄い、心が洗われるようで感動しました。「碧瑠璃の空に感動して、CDを兄さんに聞かせたら、感動してくれました」などと皆さん感動していました。ありがとうございました。

川口さんの唄のジャンルは、日本歌曲・童謡・唱歌・抒情歌・民謡・子守唄などレパートリーは広く、言葉と情景が伝わる歌手として活躍されています。詳細は川口さんの公式サイトをお目通しして下さい。

「記念居合道演武」は、総会会場で総会直前にご披露頂きました。演武刀は真剣で演武数六本「前」「八重垣」「附近」「風」「行違」「抜打」です。真剣での演武の迫力に会場は圧倒され、約十分の間の静寂のあと拍手喝采でした。通常の演武では安全優先で模擬刀を使用するそうですが、今回の演武では泊範士のご厚意で、特別に真剣での迫力ある演武となりました。

後日、泊先輩に居合道との出会い等についてお話を伺いました。居合道との出会いは昭和五二年前ごろ家の近くに道場が開場し、土日の趣味作りと気楽に始めたそうですが、四



〇年間も続けたら今は人生そのものになったと語られました。真剣での演武は、肩の力を抜き「平常心」の心持で立ち向かうそうです。今後もし身ともに健康を維持し、十段位まで目指すそうです。

同窓生の皆さんも、心身ともに健康で唄や運動など楽しい趣味を持ち、豊かな人生にしたいものですね。

以上

年度幹事より

昭和四八年卒 山本 朗

今年開催された節目の第四十回東京同窓会は、私たち四八年卒が年度幹事を務めさせて頂きました。今回も二百名近い大勢の会員の皆様にご参加いただき、本当にありがとうございました。

今年は、講演会の代わりに二階で特別コンサートを開催し、その後、三階の会場に移動していただき、居合道演武、総会という段取りで実施しましたので、懇親会の乾杯まで少し時間をいただくことになりましたが、いかがだったでしょうか？

当日は、同窓会役員の方々の指導のもとに、私たち年度幹事は受付、会計、司会を皆で分担しなんとか無事に終えることができました。ご協力に感謝申し上げます。

私たち四八年卒は、六十歳の還暦を過ぎました。少しは時間に余裕ができたのではないかと、年度幹事として同期生が大勢集まることから、鹿児島在住の同期生にも声をかけたところ、三名の方が鹿児島

から上京して参加してくれました。

同期というのがあります。

少子化の影響もあり、私たちの時代よりも生徒数が減っていることはこれまでも聞いており、心配もしていましたが、御来賓の渡辺先生に御持参していただいたDVDを上演すると、生徒の皆が元気で、かつての私たちの時代を思い出させるものがあり、とても感動しました。やはり、映像の力はすごいものがあり、若さの魅力を十分に伝えていました。

これから、さまざまな家庭事情で故郷に帰ったり、これからも東京あるいはその近郊で生活を続けることになりませんが、同窓会がひとつの交流の場としてあり続けることは、大事なことだと思います。人間は孤立すると弱くなるものです。

また、来年も元気で会いましょう。

美術部生徒作品



永遠



初夏の夢

陵友だより 目次

田口精一	昭和23年……13	佐藤妙子	昭和44年……19
篠田徹男	昭和25年……13	有蘭茂矢	昭和45年……20
大平政弘	昭和34年……14	福元勇次	昭和45年……20
蔵前廣實	昭和35年……14	中井尚文	昭和46年……21
宇都陸海	昭和36年……15	凶師田格	昭和47年……21
上久保進	昭和36年……15	椎原直子	昭和48年……22
南谷亘英	昭和36年……16	蔵元明洋	昭和49年……23
川野博一	昭和37年……16	林昭子	昭和50年……23
木村公紀	昭和39年……17	下之園ルリ子	昭和51年……24
中野辰子	昭和40年……17	室屋志郎	昭和54年……24
橋本起世子	昭和41年……18	田中勝之	昭和55年……24
峯苦稔三	昭和41年……18	有村公美子	平成06年……25
参納和子	昭和43年……19		

神戈陵俳壇・歌壇 目次

俳句		短歌	
吉見晃武	昭和25年……26	橋本起世子	昭和41年……27
前橋竹之	昭和25年……26	松永郁代	昭和40年……27
大平政弘	昭和34年……26	椎原直子	昭和48年……27
畠野修一	昭和36年……26		
南谷亘英	昭和36年……26		
森山昭利	昭和41年……26		
有蘭茂矢	昭和45年……27		
松永郁代	昭和40年……27		
椎原直子	昭和48年……27		



陵友だより

盟友、酒匂譲に

昭和三年卒
(美術部員) 田口 精 一

酒匂！君が逝って半年、いまだ信じられない。いや、信じたくないのだろうな。君は風のように現れ、風のように消えた。

最初の登場は、昭和二年、四年生の春だ。突然の哄笑に、何事かと飛び出すと、人垣と絵巻物があった。汽車通学生のユーモラスな描写は、



人々の心を和ませ、生きる意欲を与えた。夏休み。本物の芸術家鮎

島先生との出会いは、翌春の美術部全員「美校志望」に発展、校長を驚かせる。芸大を志望する君は一浪、

恩師を追って甲南高校美術部に潜入、腕を磨いて見事合格。「てつきり、本校の卒業生かと」此処でも矢張り話題の人。上京。当然の様に、わが宿の同居人。そして、今一人の盟友『ヒロシマ』の男との出会いに。

具象から抽象への転向も、注目の銀座みゆき画廊でエースと謳われても、不思議ではない。半世紀、君は

欠かさず案内を呉れ、公・私共に僕を支えて呉れた。それが何故。最後になった個展の案内状だけがない。

癌の事は知っていたから、問う気はない。然し、画廊の終焉に自ら手を挙げ、ホーム・グラウンドの掉尾を飾って見せた君に――二週間の余力しか残っていない――とは誰も気付かなかった。と聞いた時、全てを了解した。これが君の美学、生き方だ。君は最後まで芸術家だった。

八月、僕は広島に向かった。念願の「長崎」を舞台とする戦中の青春物語の成果を伝えたい友に会う為だ。去年あの『ヒロシマ』の男から冊子

と手紙が届いた。「八十過ぎまで生き

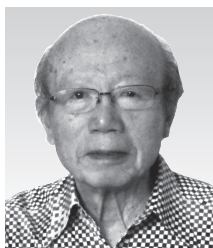
延びた。これからは語り部に専念」とある。二七年ぶりの再会だ。「そうか、彼も死んだか。も一度、語り明かしかつたなア。あの頃はいつも空腹で・・・瞑目する彼の背後に、

懐かしい西園和生の『桜島』がある。(詳細は、そちらに居る本人から、どーぞ) そうだ、大事なことを思い出した。確か、川辺高校の校章は、君の応募作。という事はつまり、消

えても君は常以後輩たちと共に在りつて訳。畜生！これも計算の内かよ。

東京同窓会の四〇年

昭和二五年卒 篠田 徹男



昭和五二年
(一九七七年)
十一月一日
わが東京同窓
会の第一回総
会が開催された記念すべき日である。
それから四〇年、「十年一昔」の

言葉をなぞれば四倍の時間である。当時、校長だった原口哲二先生の働きかけで同学年の室屋数盛さんを中心に準備が始まった。当時の熱気を想い出す。

今の役員のお名前を見ても、発足

当時のメンバーは一人もいない。当初の先輩もほとんど鬼籍に入られた。光陰矢の如し。四〇年という時間を改めて思う。だが遺志を受け継いだ後輩諸氏によって今やますます活発

な活動が続けられている。特筆すべきは事務局を引き受けて下さった盈進社の存在だ。昭和三四年卒の同窓生、下園市男社長は数年前に亡く

なったが、亡き後も典子夫人が会社を継承し、事務局もそのまま今に至っている。わが同窓会の隆盛は盈進社あってのものと言っても過言ではない。

翻って小生。幹事長の室屋さんとオフィスが近かったご縁で事務局長をお引き受けしたのだが、四〇年あまりの東京暮らしの末、遙か北の果て札幌に住み着いてしまった。以来二〇年、もともと生地ではなかった川辺に今や何の引つかかりもない。だがふるさととは間違いなく川辺なのだ。

母校のシンボル神戈陵、飯盛塚山、田の上嶽。住んでいたイゼンモトの城の山。諏訪山から眺める今田の丘、そして広瀬川とその彼方に広がる田んぼ――。川辺峠を下って最初に目にする遠い野間岳の姿も忘れられない。

幼時、イゼンモトにあった老舗の三原呉服店も過疎の影響か、つい最近、閉店に追い込まれたと聞く。しかし山や川は変わらない。青春の想い出とともに自然は昔のままにわが胸にあり。

わが母校、川辺高校は永遠に不滅です！

俳句にはまってる

昭和三四年卒 大平 政弘

数年前の東京同窓会の帰途、先輩の前橋竹之さん、吉見晃武さんのお誘いを受けて俳句を学び始めた。確か大船駅そばの居酒屋「風来坊」でのことと思う。その時の私の生まれて初めての俳句「さあゆかん鮎酒温泉初紅葉」我ながらいい俳句と思っただのだが、先輩お二人は黙して語らず・・・。俳句をなさっている方々からお分かりの通り、重季（季語が複数ある）しかも秋と夏の両方の季語が入っている、「さあゆかん」は短歌ならともかく・・・。

かくしてもう五年、最近は家内に擲掬われるくらい俳句にはまってるようだ。

私は知覧町出身なので知らなかつ

たのだが、川辺町出身（残念ながら高校はラ・サール高！）に有名な俳人福永耕二がいる。句碑が岩屋公園にあり、風と競ふ帰郷のこころ青稲田の句が刻まれている。また、「南九州市かわなべ青の俳句大会」が毎年開催され、毎年数万句の応募があるという。その第一回（平成十一年）の大賞（福永耕二賞）は当時甲南高校一年の宮下純一さんの「声援がしぶきにぬれて泳ぎ切る」だった。

氏はご存知のとおり、オリンピックメダリストの水泳選手で最近よくNHK TVで見かけますね。

また最近のこと、兄から句集「卯浪」を貰った。有名な女流俳人鈴木眞砂女の住んでいたマンションに兄の経理事務所があり、その縁で卯浪の店によく呑みについて貰ったのだという。裏表紙に「大平様」降る雪やここに酒売る灯をかかぐの書がある。

なお、先の俳人二人の句で私の好きな句

・新宿ははるかなる墓碑鳥渡る

耕二

・花冷えや箆筒の底の男帯 眞砂女
俳句のレベルはまだまだの私でも、

まぐれで ほめられる句を作れるこ

ともある。

・朝顔を褒められ種を約しけり

(NHK TV特選)

どうですか！皆さんも俳句を始めてみませんか！

満州からの引き揚げ

昭和三五年卒 蔵前 廣實

今年の盆休みに、私の娘が六才になる孫(男の子)を連れてやってきた。

トランプやオセロ等やっても私といい勝負になる。私の幼少時代を振り返ってみると、満州での収容所を渡り歩いた年齢だ。

終戦のころ、私の父は消息がないままソ連の捕虜としてすでにシベリアに送り込まれていた。

母は弟を背負い、私と姉はリュックサックを背負われ歩かされた。

年老いた人や病気や栄養失調で倒れた子供達は泣く泣く捨て置きするしかなかった。誰も助けられない、自分のことで精一杯生きようと生死の境をさまよいつけるしかなかったのだ。

五歳まで新京(長春)で暮らしていたが、父の転勤で撫順で終戦を迎えた。撫順から奉天さらに大連にたどり着くまで何ヶ月かかったんだろ

うか。我々はようやく大連の港にたどり着いた。満天の星空を見上げながら日本への引揚船を収容所で待った。乗船前に検疫があり頭からDDTをぶっかけられた。待ちに待った乗船の日だ。祖国の土を踏む夢を見ながらの第一歩だ。トラップを登りハッチが開かれ、むせるような船底に積み込まれた。

数日後、ようやく佐世保港が見渡せる沖で停船した。船内でコレラ患者が発生し上陸の許可が下りないようだ。港を目前にしながらかく多くの遺体が甲板にあった。私はいつも甲板で遊んでいたので何度も水葬の儀式を見ていた。

船内生活一ヶ月、昭和二十一年九月やっと一年がかりで日本の土の上足を踏み入れた。鹿児島本線に乗ったが、列車は木材や石炭を運ぶ無蓋貨車であった。阿多駅からさらに支線に乗り換え、東川辺駅に着いたのが夜八時頃であった。昭和二十一年九月二六日夏の香りを残した暑い夜だった。幼いころのいろいろな体験を今でも覚えていることは、その体験から受けた容易ならぬ光景が、子供であった私の心の隅に残っていたに違いない。また幼いものだけが持

つ鋭い感受性があつたから様々な光景をとらえることが出来たのだろう。
*五年前に新京の住んでいた官舎を尋ねてみたら一〇階建てのビル街になっていました。

孫世代に伝えたい 【生き方のヒント】

昭和三六年卒 宇都陸海

私は七人の孫(男五、女二)に恵まれた。幸い難なく成長し、上は大学二年生である。

昨年の秋、肺炎を患い、主治医にレスキュー出来ないうちも、と言われ、最悪の延命処置の同意書にサインまでさせられた。気分にかけて、終末に思いをはせれば、色んな事が頭を過ります。中でも、孫たちの行く末です。そこで【爺の遺言】を書き綴りましたが、病が回復して公開の機会を失ってしまつた。

読み直して見て、かわなべ高校時代、周りの人達の「勝つしかなか」「跳ばかい泣こかいひつ跳んだ方が良からう」「やってみらん解らん」等々が、私の生き方に成っていた事に気づいた。

私は六七歳まで丈夫を武器に、起業するなど無茶で不摂生な生活を過

ごして来ました。これが祟つたのか、二〇一〇年春以来、大病を幾つも患い、そして今度は膠原病を発症し、リウマチと肺の疾患を患つた。昨年は肺炎を併発、四〇日間入院生活を強いられ現在も加療中です。

病克服の背景には【気分が悪くならず、意志を全うする】があります。気分は多分に悲観的になり、意志は氣力を奮い立たせて、ポジティブになる。昔から「病は氣から」と言います。故障がちの先輩・同輩、神戈陵精神の出番です。

生き様の二つ目は【やってみなはれ】です。これは富士電機のシステム部長の名代でサントリーのサントリーモルトバーデン日比谷の開店セレモニー?に招待された際、当時のサントリー社長佐治敬三氏と語らう中で、【何事もやってみなはれ】です。これはサントリーの精神です。と言われ感銘、「ひつ跳んだ方が良からう」が同期したが、何時しか自分の座右の銘として拝借。

出来る事だけでは進歩が無い。【成すべきは、最後まで成す】事への執念が、考える、試す、評価する、さらに改善する、のPDCA (plan-do-check-action) サイクルを回す事に

なり、能力を高め、發揮する術になる。結果と達成感が、相乗的に自信と勇氣をもたらします。

これらの何点かは、いずれ機会を見て、孫たちに読み解いてやりたいと思つて居ます。

最後に、元名門の第四中学校以来一六六年を経て、存続の危機にあるとの母校、「老兵はただ消えるのみ」と言いますが、一言提案。当時は寄宿舎(寮)や、「神戈陵学舎」が全校を向上させる牽引役になっていたように思います。特に「神戈陵学舎」は白百合寮を使って、先生方がボランティアで主要科目の補修を無料で実施してくれた。高校生の向上心を煽るには「神戈陵学舎」の復活を提案したい。進学塾の無料提供でも良い。

想えば遠くへ!

昭和三六年卒

上久保 進



東京同窓会
会報誌「神戈陵」四〇周年
記念特別号発
刊おめでとう

ございます。寄稿にあたり、長年会報誌発行に携われた皆様のご苦労を

思い、心より感謝いたします。

私は昭和三六年川辺高校を卒業と同時に就職、上京いたしました。当時の国鉄西鹿兒島駅発の急行「霧島」で、東京駅まで二八時間余りの長旅でした。

平成二四年、七〇才で仕事をリタイアして、娘に二人目の孫が誕生したのを機会に、住み慣れた千葉県船橋市から、埼玉県さいたま市へ移り住みました。歩いて行き来できる距離で「ジジ」「ババ」の生活を楽しんでいます。

移り住んですぐに地元の方から、小学校を中心にしたボランティア活動に参加の依頼があり、時間に余裕が出来たので引き受ける事にしました。(平日に打合せや研修会参加があり、仕事をしている人には負担が大きいのです)今年で三年になります。元氣なうちは来年以降もボランティア活動は続けていこうと思つています。

また、趣味として、若い時に覚えて中断していた「囲碁」と「マージャン」に新しく「ヨーガ」を加えて、住んでいるマンションの仲間と楽しんでいきます。

私たち昭和三六年卒の同窓生は、

来年の平成二九年には、後期高齢者の仲間入りです。少子化と対極の言葉で、あまり好きな言葉ではありませんが、私は人生で一番良い時だと思っています。

最後に、同窓生のご健康と、東京同窓会の益々の発展をお祈りいたします。

三六会の仲間たち

昭和三六年卒 南谷 巨英

昭和三六年卒業の五クラス二百十余名の同期同窓会三六会は三、四年

卒業して九段会館に庭月野優侑基君(総支配人歴任)がいて便宜を図り、また川辺には川路道昭君(校医歴任)達がいて何かという同期のみんなが集まりやすい環境を作ってくれた。リタイア後も柏と神殿の二か所に居を構えている辰元克充君や南さつま市に戻りふるさと振興で活躍中の上東書三君などがいて、引き続き離郷組と在郷組とのつなぎ役になつてくれて有り難い。各地でも三六会の世話役を引き受けてくれる人材に恵まれ、最近では平成二二年京都大会(参加四七名、実行委員長

吉永道雄君)、平成二四年鹿兒島古希記念大会(参加五五名、実行委員長 塩入俊六君)、平成二七年東京大会(参加四一名、実行委員長 迫正敏君)と開催されてきた。昨年の

東京大会では皇居ほか都内観光のち東京ガーデンパレスホテルにて宴会、宿泊となった。近況報告、カラオケなどあつという間に所定の時間が経過し、後は幹事部屋で夜遅くまで歓談した。翌日ははとバスでスカイツリー、浅草界隈を観光、昼食のち一次解散し、その後鹿兒島組を中心に希望者十数名は東武電車日光に向かい宇都陸海君の別荘にお世話になった。ここでは、平成十七年福岡大会の立役者だった吉田京子さんとカンボジアの井戸掘りボランティアで活躍した山之内喜子さんがリーダーシップを發揮、にぎやかな宴会となりそのカラオケはプロ顔負けで二人して最高点を競っていた。翌日は中禅寺湖、東照宮を見物、うまい具合に常総の大水害は間一髪逃れて、みんなが飛行機と新幹線で無事帰宅できた。

卒業以来五五年も過ぎると、それぞれが歩んできた人生も多種多様で、経験談や考え方は面白く、得難い勉

強となる。次の三六会は、本拠の川辺で喜寿の同窓会をやるとういう話があるが、みんなが元気に集い祝えることを願っている。

世相寸評

昭和三七年卒 川野 博一

最近マスコミを通じ、広くは国際情勢、国内では政治・経済そして社会問題等を見聞するたびに憤慨することしきりである。政治的信条や宗教問題は個人の思想の範囲なのでさ

ておき、日本の社会的現象について所感を述べてみたい。まず、昨今の日本人から『責任』という自覚が失われつつあるのではと強く危惧する。公務員・企業経営者等の不祥事が起こる度に記者団の前に「がん首」を並べ『再発防止に努めます』と形ばかりに頭を下げる姿をうんざりするほど見せられてきた。しかしその責任者が自らのことばで説明責任を果たしその責任をいさぎよくとったという事は寡聞にして久しい。

社会保険庁のずさん運営、福島原発事故の事後処理、新国立競技場の設計変更、群馬大医学部の手術ミス

等々枚挙にいとまがない。いずれも真相を究明し、公に発表し責任者の処罰にいたったものはない。明治時代以前の日本人なら切腹にもあたいするほどの大罪であろう。ほかに大企業の粉飾決算、実験データの不正、原材料のごまかしなど日本人の誠実で勤勉な伝統・美徳を「どぶ」に捨て、自己の利益追求と保身のみを第一と考えた末の行動・結果が目にあまる。これでは近年、国際社会から非難されている、中国、北朝鮮、ロシア、イスラムテロ組織と根本的では似たような自己中心思考とみられかねない。

このような風潮は高度成長時代(昭和四〇年代半ば頃)からはびこってきたのではなからうか。経済発展・利益第一の拝金主義に押され、人間として最も大切な倫理に基づく行動規範が個人の中に確立されないまま、その思想が子弟の教育、しつけにも引きつがれてきた。そして『道徳』の「たが」がはずれ、親殺し子殺し無差別殺人、青少年のいじめや殺人にまでその影響は及んでいる。

何が、どこで間違ったのか今一度それぞれに考える時ではなからうか。子供の育て方、自分の生き方にお

いて、絶対に守るべきこと、それぞ
れの家族や子孫に伝えるべきことを
「家訓」として残すべきであろう。

「家訓」として残すべきである。貧
困に耐え、寒さに耐え勉強し、歯
をくいしばって生き抜いてきた親が、
なぜ子供や孫のことになると安易に
「金」で解決しようとするのか。子
供の辛苦を見ることから逃れている
のは親心ではない。どんなに苦しく
ても立派に生きている姿を子供たち
に見せ、子供が親を誇りに思えるよ
うに生きて見せることが子供を愛す
るということではなからうか。親の
毅然たる生き様、自己犠牲の精神が、
親亡きあともその家族の心の支えと
なって次代に受けつがれていけば、
日本人のよき資質は再び復活し、本
当の意味での良き日本再建に貢献し
てくれるであろう。特に世の父親た
ちにご一考いただければと願う次第
である。

平成二八年初秋

自省をこめて

学園ソングで思い出す高校生活

昭和三九年卒 木村公紀

在学中に多くの学園ソングが流行
した。半世紀が過ぎた今でも歌詞を

忘れていない。歌を口ずさむと何故
か、あの日あの時のことが懐かしく
思い出される。

〈♪赤い夕陽が校舎をそめて……〉。

当時大ヒットした「高校三年生」。
この歌は、木造の古びた校舎から、
鉄筋コンクリート三階建ての新校舎
に移り学んだ時のことを思い出させ
てくれる。教室からは神戈丘の全景
が良く見えた。日当たり抜群の窓際
では居眠りをしては良く叱られたも
のだ。

当時の校舎は今でも残っているの
だろうか。

〈♪二度とかえらぬ思い出乗せて……
に始まる「修学旅行」〉。

この歌は、女子だけが修学旅行に
参加し、男子は寂しく補習授業を受
けさせられた時のことを思い出す。
男子が旅行に行けなかった理由には
諸説あるようだが、今でもはつきり
解らない。男女が一緒に楽しそうに
東京見物している修学旅行生を見る
たびに、当時の寂しい補習風景を思
い出す。

今でも変わらぬ伝統の一つになっ
ているのだろうか。

〈♪空に向かってあげた手に……〉。

友情や初恋など淡い気持ちを唄っ
た「学園広場」。この歌では、歌詞
とは裏腹に、男女間の交際について
殊のほか厳しい目とお叱りがあつた
当時の先生方たちのことを思い出す。
男女共学であるにもかかわらず、日
常の相互の語りいまでも禁じていた
ような気がする。職員室に呼ばれ、
ペナルティーを科せられた今は亡き
友の顔も同時に思い出す。

SNS到来の今も、変わらぬ厳し
いご指導があるのであろうか。

「美しい十代」「女学生」「青春の城
下町」などの歌にもあの日あの時の
ことが懐かしく思い出される。

高校を卒業して早や半世紀。古稀
という節目の年に当時を思い起こし
ながら「自分史」に書き留めること
としたい。

「想う事」

昭和四〇年卒

中野辰子

(旧姓 推原)

ふるさとの山に向かい言うことなし
ふるさとの山はありがたきかな

石川啄木

晴れてよし曇りてもよし富士の山
元の姿は変わらざりけり

山岡鉄舟

いずれの句も古里の原風景に重ね
て自らの「想う事」を詠んだ詩で、
私の好きな詩である。詩吟で吟ずる
と更に味わい深い。

私の育った勝目は、春は蝶々・夏
はホタル・秋はトンボと自然にあふ
れていた。

道端の小さな草花は風雨に曝され
ながらも、まるでそれぞれに心があ
るかのように生き生きと輝いていた。
椿の花で首飾りを作って、木漏れ
日の下にゴザを敷いて遊んでいた幼
少時代。これが私の古里の原風景で
ある。

「生涯の旅路」の一節「生涯にお
いて今日というこの道を再び通るこ
とはない。今日という道をどうして
うかうかと通ることができようか。
笑って通ろう。歌って通ろう。た
たかなくてもそこで強くなるう」は、ま
さに私の「想う事」そのものである。
そして「古里の小さな花も風雨をし
のいで美しくなつて香る」で結んでい
る。まさに私の古里の原風景である。
古里の原風景は、私の考え方や感じ
方に深く根ざしているようである。

趣味のアートフラワーが高じて、アートフラワー関係の仕事に携わって三五年にもなった。私の仕事の原点は、私の古里の原風景にあるのだと思う。

私は古来稀なる年という古稀を迎えた。いわゆる前期高齢者に分類される年齢であるが、七〇歳手前になってクロール一五〇mを泳げるようになり、折田先生指導のもと泣かされたプールの授業をこの年になってやっと克服できた。人生はまだまだ後半に輝くという言葉を実体験したのである。人は年毎に年輪を刻むと言う。刻み込まれた年輪を見つめ返すと新しい何かが見えて来るから、年輪を積み重ねた人生の後半になって輝くのである。人生に定年はない。まだまだ頑張っていこう！

上野の杜の散策

昭和四一年卒 橋本起世子

私の住まいはJR上野駅から徒歩で一分ほどの所にあり、毎日上野公園を通り抜けながら散策を楽しんでいます。

上野公園は、オランダ軍医ボードウィン博士が建設予定の医学施設を

中止させて作らせた日本で初めての都市型公園です。

春は芸大前から桜の花が咲き乱れ、夏は大きな緑の木々が涼しい風を運んでくれます。秋は銀杏並木の黄色が鮮やかで、冬は木々の葉ずれの音色と共にさし込む陽射しが温かさを醸し出してくれます。そんな四季折々を感じながら歩き出すと、日本初のモノレールが走る動物園、恐竜や海のハンター達がやってくる国立科学博物館、若冲展で毎日長蛇の列を作った東京都美術館、そして同郷の黒田清輝の記念館など、一年中飽きることのない芸術の杜となります。旧博物館動物園駅舎の所を少し横道に入り、国際子ども図書館に足を運ぶと、いろんな国の言葉での絵本があり、大人でも言葉がわからなくても、なんとなく楽しくなる空間に出会えます。

噴水広場でアイスクリームをなめ



ながら一休みし、周りを見渡すと、

いろんな大道芸人の方達が観客の目を楽しませ魅了しています。その他にも、二度と落ちないと言う合格大仏、二代将軍秀忠と天海和尚が相談して創建したという寛永寺、早朝の池一面に蓮の花が咲く不忍池、ちなみに蓮の花の命は四日間、花言葉は「救ってください」だそうです。何となく納得。そして江戸城無血開城で江戸を救った私たちの故郷鹿児島の人「セゴドン」が愛犬つんを引き連れて良かにせどんで立っています。

毎日北から南から修学旅行生、外国人、家族連れ、恋人同士と色んな人間模様があります。

どうか皆さんも、横山大観がオーナーだった韻松亭、天皇の料理番秋山徳蔵が修業した精養軒で美味しい食事に舌鼓をうち、散策して西郷どんに会いにおじゃつたもんせ。

「悲しい特攻のあった知覧から戦争の悲惨さを語り継ごう」

昭和四一年卒 峯 苦 稔 三

今年先の大戦終戦七一年になり、私もやがて七〇歳を迎えます。この戦争によるあまりにも大きな犠牲の

もとに、平和な国が築かれてきました。その中に平和に生かされてきた事を、大変有り難く幸せに思っています。

しかし、人類は悲しい戦争を繰り返してきました、そしてまだ続いています。平和への取り組みは、全くの無力ですが、祖父母や元「なでしこ隊」知覧高女の勤労動員女学生達で、当時一四・一五歳でした。勉強そっちのけで時に空襲を受けながら特攻隊員の宿舎(三角兵舎)の掃除や洗濯など身の回りのお世話をさせられていました。特攻隊員の出撃のお見送りの時は桜の花の枝を振ってお見送りをしたそうですが、隊員のお顔は見られなかったそうです。四・五歳上のお兄さんたちが二時間後には命がなくなってしまうと思うと、胸がはちきれそうになったそうです。の方々から聞かされた知覧特攻の悲しい歴史を、平和への願いとして語り継いでいくことが、微力ですが平和への取り組みとと思っています。

「知覧特攻平和会館」では各地陸軍特別攻撃隊員一〇三六名の方々の遺影・遺品・家族への遺書お手紙など約一万八千点の資料などを保存公

開いています。開館以来六〇数万人の方が来館されていますが、そのうち、全国から六二〇余校約六万人の小・中・高校生も平和学習の一環で千羽鶴を持参して訪れています。そして、隊員の遺書・お手紙を見ながら隊員の思いに涙しながら、命の尊さと平和への思いをかみしめています。

南九州市(旧知覧町)ではこの平和会館のこれら数多くの資料を厳選し、世界平和への願いを「知覧からの手紙」としてユネスコ世界遺産への登録の取り組みを進めていきましたが、登録は残念ながらかなえられませんでした。登録申請の資料では、「風化させてはならないあの記憶・・・、平和を願い——知覧から世界へ語り継ぐ愛のメッセージ」。特攻隊員が書き残した遺書や手紙は「戦争の悲劇・愛する者への想い」が綴られた「平和への遺言」として、そして戦争の悲惨さを世界の人々に語り継ぎ「二度と戦争を起こしてはならない」と強く強く訴えています。水と空気のきれいな青い星・宇宙船地球号から戦争がなくなり、一刻も早く平和な星になってほしいものです。語り継ぐことが、小さな取り組みの一步です。

「二人の大先輩」

昭和四三年 参納 和子



小学四年生の朝礼で校長先生より、皆さんの先輩松田さんから来た葉書に南

極に行く事になりました。思わず見上げた空は澄んだ群青色が一面綺麗な朝の空だった。

東京同窓会で十七年卒松田達郎国立極地研究所名誉教授にお会い出来た時葉書の話をしましたら、最初断つたら教授が僕が若ければ行くんだけどなあ〜とつぶやくのを聞いて行きなすと答えた。満面の笑みで話され、四〇年前の朝礼の松田さんと会えて川辺高校卒で良かったと思った。

南極倶楽部会報によると昭和三四年四次南極観測隊員として松田さんが昭和基地の海域で採取し持ち帰った植物プランクトンで、褐色色の海水は固定標本と検鏡し高密度珪藻が含まれていた。五次観測隊に生物の研究者としては最初の越冬隊員として参加。南極のコケ群落の生態を取り纏め東北大学から理学博士の学位が授与された。昭和基地では三種の

ダニを初めて発見、生態学研究に着手。二次観測隊長兼越冬隊長として隊の運営指揮をとった。第一回南極環境科学シンポジウムに総合研究代表者として発表論文集出版。最初の南極観測責任者会議の日本代表としてホルダーの会議出席。勲三等旭日中授賞を受賞。とても偉大な方だった。

創立一〇〇周年の年、卒業五〇周年を迎えた昭和二五年卒の方々の記念誌文集は、戦時中旧制中学入学、新制高校移行等経験され、努力の賜物の人生が其々に素晴らしく描かれた文集だと思った。その発起人、当時読売社友読売文化センター常務の大倉野貞俊さんから、合併新市名募集名は九州の北の入口が北九州市なら南の入口は南九州市、廻りから仲間に入れてと言われる名前が良いと南九州市を提案された事があった。故郷愛に対する情熱が実った結果だと思っている。市報によると北九州市と職員交流や八月には全国田んぼアートサミット等開催され、私も三年前九月に帰った時、櫓の上から眺めた田んぼアートは雄大で南九州市と稲の文字にしばし見入っていた事があるが、きっと大倉野さんも天から眺めて喜んでいると思う。

「故郷の原風景」柿の木」

昭和四四年卒 佐藤 妙子

草むらの虫の音に、秋の気配を感じられる今日この頃、同窓生の皆様にはお変わりございませんでしょうか。

私は、先日の東京同窓会四〇周年記念総会・懇親会に久しぶりに参加させて頂きました。四〇周年の節目の年でコンサート・居合道演武等のイベントも用意され、とても盛大な会合となりました。久しぶりの参加で会話も弾み、時の流れに逆らうかのような楽しい時間を過ごさせて頂いた頂きました。会を運営されて下さる皆様のご苦労と配慮には感謝の念でいっぱいです。ありがとうございます。

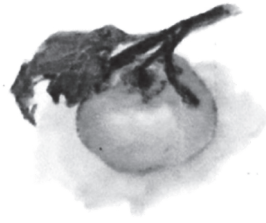
私は、数年前から二カ月に一度の割合で帰省しております。その時々四季の風情に、とつても懐かしい昔を想い、楽しんでおります。

我が家の庭には渋柿の木が三本ほどあります。子供の頃に、祖父母が竿で落とした柿を、私たち兄弟が拾い、祖母が皮をむき、縁側の軒先に吊るし柿していた光景を、よく思い出します。私たち子供は、夕方になると雨戸を閉めるのが、子供ながら

に唯一任された仕事でした。雨戸を閉める都度、柿の具合を眺めつつ、時には内緒でまだ渋い柿をつまみ食いた事など・・・。今と違い、甘くお菓子のない頃でしたので、甘く美味しい干し柿の出来るのを一日千秋の想いで眺めていたものです。

子供の頃は大木に見えた柿の木も、今ではすっかり老木です。それでも毎年の台風にも負けず、我が家を見守り続けてきた様に思えます。先日、庭木の職人さんに、家族に想いのある柿の木なので、十分な手入れをして下さいとお願いすることでした。秋になると日暮れも早く、子供ごろに寂しい気持ちも、庭の柿の木に見守られながら、そしてその色づきを見ては温かい気持ちになれたのでしょうか。

柿が店頭に出回る頃になると、昔の情景がよぎります。心よりよき故郷に感謝です。



「江戸の暗部を偲びながらの散歩」

昭和四五年卒 有 蘭 茂 矢

皆さんは泪橋をご存知だろうか。本誌「神戈陵俳壇」に投稿した俳句の説明をこの文で試みます。

ひぐらしや泪橋からスカイツリ

有蘭茂矢

江戸時代の江戸には西に鈴ヶ森、東に小塚原（こずかっぱら）と言う刑場がありました。鈴ヶ森は今の大森付近、小塚原は南千住付近です。首を切られるこの世の最後に知人と会う場所が両刑場とも泪橋でした。当時は川に架かる橋だったようです。今は、鈴ヶ森の泪橋の名は地名にも橋にも残っていません。小塚原の泪橋も地名や橋には残っていないのですが、交差点の名前で現存します。有名な漫画「あしたのジョー」にも出てきます。丹下ジムの付近が泪橋の設定です。この漫画が出た頃は確かに一人で散歩する勇氣はありませんでした。ここは、その頃、三谷と呼ばれる付近です。岡林信康の三谷ブルースを聞けば判ります。いわゆるドヤ街で、その日暮らしの人が結構いた頃があったのです。



今年の八月に泪橋界隈を散歩しました。まず、南千住駅のそばの延命寺。ここは、小塚原刑場があった所とされ、結構めだつ地蔵が立っています。首切り地蔵です。回向院と言う寺の分院として、今は延命寺となっています。安政の大獄で刑死した吉田松陰の墓石もあるようです。この近くには吉原女郎の死体を投げ込んだ投げ込み寺や吉展ちゃんの死体見つかった寺とか、結構いろいろ見つけます。今は、浮浪者の街の印象は感じません。ドヤの今は外国のバッグパッカー等も利用する安価な宿として、今も十分に機能しているようです。

「彫刻と読書」

昭和四五年卒 福 元 勇 次

最後に冒頭の俳句の説明です。夕刻で蝸のカナカナが聞こえる情景の元で、泪橋交差点から近くのスカイツリーを見てみた設定で作った幻です。しっかりと見えません。日暮らし労働者の姿も今は幻で、超現代のスカイツリーと対比する句を創りたかったのです。チョット詰め込み過ぎかもしれません。

定年を迎えて四年になろうとしております。現在、セカンドライフとして彫刻を始めており、仏像彫刻のセミナーに一年通いなんとか、彫刻刀の使い方、砥ぎ方を習得し仏像彫刻に挑戦しましたが、仏教の本を見るうちに精神的に難しい事を悟り、ならばと神様と社（神様は自然崇拜である為、製作上精神的負担が小さい）を製作。これがなかなか興味深い



く打ち込めました。写真は、ある展示会に出展した作品で、須佐之男命、饒速日命、大日靈貴尊と開聞神社の拝殿をモデルにして製作。他に、レリーフ(板の浮き彫り)なども楽しんでおります。

当初は、一日中座りっぱなしであったため腰痛を患い、現在は午前中だけにして、昼から時間が空きますので、神話の世界を理解するため、古代史を読み漁っていたら、また、これに填まり込んでしまい、神様、神社などに興味を持ちはじめた次第です。従って、現在は晴耕雨読ならぬ、晴彫雨読で楽しんでおります。中でも、日本書紀と古事記の歴史の捏造や、聖徳太子は虚像?など、いろいろの説があつて、どれを信じてよいやら。

ただ、「山下重良」氏の「古代日本原記」II インターネット上で掲載)説には共感しており、何度も読み直しておりますが、その中で、なんと、「福元」のルーツを探し出しました?。紀元前二〇〇年ころ、中国が秦の時代に、「徐福」が三千人くらいの集団で日本に渡ってきたそうで、その集団には、「福永」(「福岡」に改名)や「福寿」(「福田」に改

名)など徐福の子供らも含まれており、また、「福元」(フクゲンと読む?) (独身の若人男分) がいます。

この集団は、鹿児島島の串木野、坊津をはじめ、日本の各地に滞在または居住したとのこと。鹿児島には、「福永」「福元」の名字を持った人はたくさんいますが、恐らく、「福元」家のルーツはここだと思っております。いやはや、「温故知新」とはこのことか? 山下重良氏のネット...

<http://www.syanashianet/history/>

船乗りになった思い出

昭和四十六年卒
中井尚文
(元日本郵船機関長)

船乗りを意識し始めたのは、昭和四三年川辺高校一年の時、遠足で喜入基地を訪れた時であった。基地に停泊するタンカーを見て「船乗りっていいなあ」と思ったのが最初である。私にとって川辺高校はレベルが高く、ビりに近い自分の成績に嫌気がさし、家では勉強する真似だけでテレビ観賞という生活であった。

そのような生活を一変させたのが、喜入基地との出会いであった。それ以来、どうしたら船乗りになれるのかを担任の先生(山之内先生)に相

談。船乗りになるための幾つかの道を教えて頂いたが、どの道も高いハードルであった。色々悩んだ末、最終的には神戸商船大学一本に絞ることにした。落ちて元々という気持ちで早々と神戸の兄宅に向き、過去問題に取り組み入試に臨んだ。過去問と似た出題に幾つか恵まれたこともあり運よく合格することができた。

夢のようだった。同校は船乗り養成校であり一年時には遠泳があった。泳ぎが苦手な遠泳の単位が取れるかどうか不安だったが、早朝訓練に励み柔道で鍛えた力で完泳。どんな困難も日々の頑張りでいつか達成できると感じた。

卒業前には遠洋航海を体験し、昭和五〇年に日本郵船(株)へ三等機関士として入社。四〇代半ば以降は機関長職を執り六〇歳定年まで無事全うできた。これも支えて下さった皆様のおかげである。

船乗り生活で一番印象に残ったのは、タンカーで喜入基地に入港した時のことである。感動と感謝の気持ち一杯になった。その入港時に、海から眺めた佐多岬、開聞岳等々の絶景は、一生忘れることができない。

「世界一の絶景だ」と思う。

機関長職を退いた後、船乗り時代に培った電気の道を志し電気管理事務所を開業した。日本郵船氷川丸の電気管理の仕事もさせて頂き、昨年一〇月には川辺高校同級生達が訪船してくれた。八六歳になる氷川丸も喜んでくれているだろう。今まで船乗りとして七つの海を航海することができたのも、川辺高校のお陰である。高校時代にご指導頂いた先生方と同級生の皆様、本当にありがとうございました。

ございました。

風景としての神社仏閣巡り

昭和四十七年卒
凶師田 格

最近趣味は何ですか?と聞かれると神社仏閣巡りと答える。決して信心深いわけではなく、風景としての神社仏閣が好きなのと、適度な運動になるからである。それでも一応般若心経を唱え、仏像などを拝んで、少しは身を浄めてはいる。(笑)

きっかけは、五〇代前半に単身で三年間大阪に赴任し、「西国三三か所巡り」を始めたことによる。関西単身赴任族の定番らしいが。

京都・奈良・大阪・兵庫・和歌山・滋賀と電車・バスを乗り継ぎ、田舎



道や古い町並みをのんびり歩き、長い階段を登った先にあるお寺をお参りすると、俗世と少し離れた静かな空気を味わえ、中々楽しく、適度な運動もでき、すっかり休日の日課になりました。

お参り後に納経帳に記帳してもらうとスタンプラリーのような満足感もあります。また、広い境内で桜や紅葉を愛でながら過ごす一時は不思議と心穏やかになりますし、行きかう人との挨拶・会話など、都会のビジネス社会から離れ、心身をリフレッシュできます。

その後も「四国八八」「坂東三三」「秩父三四」と巡り、今は「神仏霊場巡拝の道一五〇」を半分ほど。先日にも奈良の信貴山朝護孫寺、談山神社(写真)を巡って来ました。

「色即是空、空即是色」と世の儚さ、人の心の移ろいなど、少しだけ精神の世界を覗き込み楽しんでおります。

「還暦を過ぎて思うこと」

昭和四八年卒 椎原直子

この夏、リオデジャネイロでオリンピック・パラリンピックが開催されました。次回二〇二〇年には東京での開催という事で、選手の皆さんはこれまでにない好成績を残し、国民も肩に力の入った応援ぶりでした。

私も何だかんだと結構観戦していました。その後、メダリスト達の才能と想像を絶する努力をとりあげた番組は、少なからず私の日常の怠慢さに反省と刺激を与えてくれました。

還暦も過ぎ「老化」の文字が身近になった今、日常にヨガやストレッチを取り入れながらも、年々、体力・気力が衰えていくのを感じています。老齢の母は今、故郷の施設にお世話になっていきます。帰省して会う度に、筋力が落ち、出来ない事が増えてしまっています。以前、リハビリや日常の事に関して「めんどうくさいって思っちゃいけないのよ。」って、子供を諭すかのように母を元気づけてきました。そして還暦を過ぎた今、その言葉をそのまま自分に言い聞かせています。

肉体の老化と同時に、感覚の老化

も視覚↓聴覚↓臭覚↓味覚↓触覚と進んで行くのだそうです。

以前、母の病室の窓際で、何気無く香りのあるハンドクリームを付けていたら「あら、いい匂いする。」って母が言った言葉に驚き、また安堵したことがあります。単調な生活の中で、臭覚を刺激してあげる事の大切さを実感しました。

今、私達の生活の中でも柔軟剤を始め、アロマを楽しむ傾向はとても良いことなのかも知れません。リラククス効果と同時に感覚の刺激も出来るのですから。

感覚の中で、最後に残る触覚はスキンシップだそうです。介護の中でも、親子間・夫婦間で、それぞれのスキンシップがあると思います。母の手足を擦りながら、こうして鹿児島に帰る楽しみを持たせて貰える事を母に感謝しています。

何事もことを構えようと、続ける事は大変ですが、日常を意識しながら過ごすだけで老化防止に効果があると言われています。これなら長く続けられそうです。オリンピック選手までとは言いませんが、年相応のピカピカの人生が送れればと願っています。

あっ！大事なことを忘れていました。老化を語るに脳の老化を外しちゃまずいですね。(これも老化現象の一つかも)

私は、還暦を過ぎて「人の名前が思い出せない」「物忘れが多い」といった経験がしばしばあります。皆さんも同じ経験をされている方がいらっしゃると思います。

六〇歳代では、脳力は若い時の半分以下になるそうです。さらに同じパターンの行動だけだと脳力はますます衰えるそうです。

脳の老化を防ぐには、五感を働かし、コミュニケーションをとり、明るく過ごすことだそうです。

私は、東京同窓会の運営に関わって久しくなりますが、東京同窓会の役員会は相互のコミュニケーションがとっても良く、大変楽しい会合となっています。皆さんも東京同窓会に関わってみませんか。きつと若返りますよ。

また、今日は本誌「陵友だより」の執筆に取り掛かっています。脳力を鍛えられますね。きつと脳が若返っているかも。期待しながら筆をおきます。

「グレン・ミラーオーケストラと私」

昭和四九年卒 蔵元明洋

私がグレン・ミラーを知ったのは、高校時代にグレン・ミラー物語をテレビで見たのがきっかけでした。その後、三十代で映画を見て、日本公演があることを知りました。初めてのコンサートは、平成九年でした。感激してコンサート終了後、サインをもらうために楽屋口に行ってみたらメンバーを載せたバスは、すでに出了後でした。翌年からは会場でもず楽屋口を確認して、コンサート終了後、駆け足で楽屋口に行き、サインをもらって写真をパチリ、その写真を翌年にファンレターとして渡して写真をまたパチリ、それを数年繰り返したら、ようやく顔を覚えてくれました。年に一回のつたない英語を話すうちにさらに仲良くなり、一杯飲んでみたいと思うようになりました。それで思いきって宿泊先のホテルに電話を試みたら、帰国前のパーティに誘われたのです。会場となったレストランで、しばしの歓談後、目の前でミニコンサートが始まりました。感激の連続でした。どこかの会場でも、コンサートが終わり日

本人のファンは、数人しかいない状態だったので、一ファンとして話すことができたし、メンバーの人たちが気さくに応じてくれたことが私にとっては、良い出会いになりました。ここ数年、開演二時間前に会場にてバスを待ち彼らに挨拶してオリジナルのシャツをペアでもらえるようになりました。今年の十二月のコンサートでは、開演前のリハーサルに人数限定で参加できる企画があり、当選したので私の念願がさらになかうことになりました。これが私の年一回の楽しみです。

女子旅
女性三人の気ままな旅!!

昭和五〇年卒 林 昭子

山形・埼玉・鹿児島出身の生まれも育ちも違う三人が会って四十年以上のお付き合いになる。

若い頃は食べ歩きや飲み会・ショッピングなどよく出掛けていた。それぞれ家庭を持つてからは暫く会うことはなかったが、子育てが一段落した頃から年三・四回飲み会を開くようになった。三人共お酒好き!!

その席で旅行も楽しみたいと年一回の女子旅へ：今年で十年目になる。まずは憧れの北海道。一泊二日で回ったバスツアー、野生のキタキツネ・エゾシカ・オジロワシを見ることのできた。その年の流水の着岸は遅れていて、丁度訪問した日に着岸初めて見る流水に感動した。

鹿児島を飛び越え二泊三日の沖縄。ゆっくりレンタカーで回り海の青さにも感動した。

高校生の時に行けなかった修学旅行で行ったであろう京都・奈良、これまで行くこともなかった。それぞれ表情の違う仏を見て感慨深いものがあ

があった。何度も来たいと思わせてくれた。

世界遺産に登録された丁度その日に訪問した東北平泉。震災の後だったのでケチケチ旅行の私たちには珍しく贅沢をした。

北陸金沢では「弁当忘れても傘忘れるな」と言われる通り突然の雨。一人が車を出し熱海へ、一泊して箱根。ずっと車で一緒、話も弾み楽しい思い出となった。

思いつきりはしゃいだディズニーランドでの一泊、翌日はスカイツリーへ。東京タワーで充分と思っていたが、上に上がってみると又違う景色を満喫できた。食わず嫌いはよくないと思う。

福島では地元の人達が親切に接してくれ優しさに感動した。

ほとんどが初めての旅行先でワクワクドキドキの感動だった。気心知れた女子旅は更に旅を楽しませてくれる。この先も続けて行く為にお互い健康でいようと話をすることの頃。さて十年目の今年はどこへ：楽しむのである。

高校卒業して四〇周年を 迎え思う今日この頃

昭和五一年卒 下之蘭ルリ子

川辺高校東京同窓会四〇周年おめでとございます。思えば昭和五一年卒の私たちの年代もちょうど高校卒業して四〇年になります。早いもので目の前に還暦、定年という現実がすぐそこまでできてしまいました。それぞれ同級生の人生は異なります。子育てが終わり新たな楽しみを見つけた人、孫の成長を楽しみにしている人、また、大病を患った人、親の介護に忙しくしている人等人生いろいろ、人生は大波、小波でしょうか。私はこれまで仕事を辞めた後の事を考えた事がなかったのですが、さすがにこの年になったら、やっと真剣に考えるようになりました。これも性格から来るのんびり屋の私は、あまり老後の事は真剣に考えずに来たようです。なるようになるでしょうと気楽に考えていました。お陰さまでこれまで風邪以外の大病することなくほぼ健康できました。少々の熱があっても仕事は休むことなく頑張ったと思います。あともう少ししたら長期のお休みがとれて好きな事ができるかと思うと、何かワクワク

クするような思いもする反面、いざ定年と言う現実を目の当たりにするようになると少々不安にもなっています。

「忙」しいという字を崩すと「忙しん偏(巾)」に「亡」と書きます。亡の下に心を書くと「忘」れるとなるように、あまり忙しいと心までを亡くし、人間として忘れてはならない事を忘れてしまう可能性が「忙しい」の言葉には含まれています。ここで思う事は、目の前の事を一心不乱にやることもよい事ではあります。が、一生懸命になるがあまり自身身を見失い、いざ何か始めようと思つた時に心も体もボロボロです。すでに遅しとならないように、じっくり自分を見つめる時間を見つけて、日々充実した時間を過ごせるようにしたいと思う今日この頃です。皆様もこれからまだまだ長い人生が続きますので健康に留意しながら頑張ります。

終戦記念日に念う

昭和五四年卒 室屋 志郎

二〇一六年夏の帰郷に際して常々考えていたことがありました。

近年『永遠の0』の映画放映やドラマ化があり、さらに息子も「零戦」や父の戦時の体験にも興味を持ったこともあり、いつ息子を故郷の隣町の「知覧特攻平和会館」へ訪館させるかでした。

今年も息子も中学二年生になり「元服」の期間を迎え、見せても良い時期ではないかと私なりに考えました。感受性の強い時期、反抗期も含めて自意識のある時期、「元服」の大人への階段を上る時期に、彼がどのように受け止め感じるのかが楽しみです。

私も幼少の時から父より戦争の話をよく聞かされていたからです。父は、海軍の飛行訓練を受け、辞令が出て着任地へ行こうとした時が終戦だったそうです。父、私、息子の男同士の三代で同じ有意義な時間を共有出来ました。

若き特攻隊員の遺品、書、フォト、試験室での放映を拝見、父も、息子も多くを語りませんが、各々が「思い」「想い」と「念い」を胸に刻んだように思います。特に「書」の文字の美しさが儂く散った若者達への悲しみをいっそう誘いました。また、放映については「家族の絆」「平和へ

の願い」が込められていました。改めて「戦争の悲惨さ」「命の尊さ」「平和への願い」を胸に感じ刻ませていただいた訪問でした。また、平和な時代であると感じさせられました。改めて訪館して良かったと感じています。「永遠の平和」「世界平和」を願います。

本館は二〇一五年一二月に本館はリニューアルされています。是非、お近くにお立ち寄りの際は訪館されてはいかがでしょう。

近況報告

昭五六年卒 田中勝之

今年の七月末、初めて髪を染めました。

毎年七月末に会社の夏祭りがあり、その日はどんな出で立ちで出勤してもOK、むしろ、積極的な仮装を推奨される日なのですが、一年前、来年の夏祭りには白髪を染めると同僚に勢いで宣言してしまつたため、頭を仮装するはめになった次第です。

私の頭髪は川辺高校東京同窓会に参加し始めた三十台後半から白髪が目立ち始め、四十台になり白髪が加速、四十台半ばには白髪の人物イ

メージがすっかり定着しました。その間、苦勞しているね、と知り合いの方々からよく言われたもので、管理職になって様々な試練を課されていた時期ではありましたが、父母とも白髪の家系で、遺伝的になるべくしてなったと私自身は思っています。

髪の色が増すにつれ、川辺高校東京同窓会の先輩諸氏をはじめ、多くの方から「お前は髪が黒ければ若く見える」と染髪を勧められてきました。正直、実年齢より上に見られたことが多く、幼い娘が父親参観で嫌な思いをするようなら染める覚悟は持っていました。幸い娘は全く気にすることなくこの春中学生になりました。

さて、いざ髪を染めて、自分の姿に激しく違和感を覚えながら恥ずかしい思いで出社すると、最初の反応はほぼ二通りで、すぐに気づいて質問なり感想を投げってくれる人、聞きたいはずなのに聞けずに挨拶か仕事上の会話で終わってしまう人、のどちらかでした。評判は賛否有り、「若く見える」より「元の方が良かった」がやや優勢です（家族は後者）。それでも、ちょっとしたサプライズを提供できて良かったと思っています。

今は慣れましたが、この先、元に戻すか、染め続けるかは思案中です。

最後に毎週通っている整体の先生の治療中の一言、「外見は若くなくても、体の方は……」。残念ながらこれが現実です。

「四年後は東京オリンピック！」

平成六年卒 有村公美子

二〇一六年、今年はりオデジャネイロでオリンピック・パラリンピックが開催されました。私がボランテニアで関わっているインドアのバレーボールは女子が出場を果たし、予選は勝ち上がりましたが、決勝トーナメントの初戦で敗れ、二大会連続のメダル獲得とはなりません。

このオリンピックから遡ること三か月、五月に東京体育館で男女のオリンピック世界最終予選兼アジア予選が開催され、私も審判員として参加しました。

女子は開催国の日本、アジア枠の韓国・タイ・カザフスタン、最終予選枠のオランダ・イタリア・ペルー・ドミニカ共和国、男子は開催国の日本、アジア枠のイラン・オーストラ

リア・中国、最終予選枠のフランス・ポーランド・ベネズエラ・カナダの八か国での出場権争いでした。この八チームの中でアジアの最上位になるか、アジア最上位を除いた七チームの中で上位三チームに入ることがオリンピック出場の条件でした。結果的に女子はアジアの最上位でオリンピック出場を果たし、男子は予選七位で予選敗退という結果でした。

前年のワールドカップでの若手選手の活躍もあってか、会場は連日超満員でした。同窓生のみならずもテレビの前で応援されていた方もいらっしやうと思えます。

テレビ局が会場の私設応援団と組んで会場を盛り上げていましたが、これまで私が関わった過去四回のオリンピック最終予選とは会場の雰囲気

が異なっているように感じました。これまでは日本戦以外の試合でも早い時間からお客様が来場し、日本戦以外でも選手に声援を送ったり、日本戦でも相手チームのナイスプレーには声援・拍手が起こったりしていました。今回の印象は試合の応援というよりも、会場でコートDJやタレントさんの煽りに乗ってスティックバルーンを打ち鳴らすこと

を目的で来ているような印象に見えてしまい、少し寂しいような虚しいような気持ちになりました。会場にいらっしやるお客様にはもともと純粹にバレーボールを楽しんでほしいですし、そのためにもっと日本チームに強くなって欲しいと思いました。

二年後の二〇一八年には女子の世界選手権（世界バレー）が、そして四年後の二〇二〇年には東京にオリンピックが日本にやってきました。世界中からお客様が日本にやってくるのです。バレーボール競技にかかわらず、これからの四年間、どの競技でも私たちの声援で日本チームを強くして、また各会場では出場全選手に敬意を払って惜しみない声援を送ることができれば、日本の素晴らしさの一面を世界中に発信できるのではないのでしょうか。

四年後、私自身がどのような形で東京オリンピックに関わることになるかはわかりませんが、関わる機会があれば精一杯頑張ることができるよう、これからの四年間を過ごしていきたいと思っています。

神戈陵 俳壇・歌壇



吉見 晃武 (昭和二五年卒)

五右衛門の底板跳ねて初湯かな
 熱爛や帰心くすぐるくにことは
 冴返る朝の回廊僧急ぐ
 切通し歴史を刻み滴りぬ
 色変えぬ松を虜に屏風岩

前橋 竹之 (昭和二五年卒)

啓蟄の十指華やぐネイルかな
 歩かねば遥かは見えず夏薊
 遺骨なき墓を洗ひて老いにけり
 宿題の星を探しに星月夜
 凍蝶の動けば翅の毀れさう

大平 政弘 (昭和三四年卒)

旅人となりて知覧の新茶買ふ
 帰る鶴出水に舞ひて風を待つ
 星流る知る人減りし故郷かな
 秋祭けふは噴かざる桜島
 故郷につづく夕空赤蜻蛉

島野 修一 (昭和三六年卒)

菜の花や海をへだてて薩摩富士
 風薫るアツシジの丘夕映ゆる
 梨の花遠くに烟る筑波山
 さいはての駅に降りるや蝉しぐれ
 夕暮れの秋雨けむる無言館

南谷 巨英 (昭和三六年卒)

寒気突き猿鳴く声や我一人
 着脹れて風と渡りぬ利根の橋
 母逝きし夜や春雷の鳴り止まず
 湾遥か群るる白帆やかげろひて
 三代の散歩ゆるりと秋日和

森山 昭利 (昭和四一年卒)

高々と花火のごとき君子蘭
 あぢさゐの青や眼を射る雨あがり
 高き陽にのうぜんかづら緋を誇る
 白雲に染まで群れ飛ぶあきあかね
 天高く木霊を返す陣戈陵

神戈陵 俳壇・歌壇



有蘭茂矢 (昭和四五年卒)

今の世の ひぐらしかなしカネとなく
蜘蛛は哀しからずやカネと鳴く
ひぐらしや泪橋からスカイツリ
枯れ尾花明日より今が我若し

松永 郁代 (昭和四〇年卒)

初盆に集うて母をなつかしむ

椎原 直子 (昭和四八年卒)

参り来て石の影添ふ彼岸花
えご咲ける里の軒端に雨宿り
あめんぼのはかなく動く波紋かな
窓辺より夜風渡りて月あかり
里帰りして白木蓮の庭に佇つ

橋本 起世子 (昭和四一年卒)

新緑の木漏れ日溢るる霧島路龍馬おりようの言の葉聴こゆ
春風に波立つ海を眺めつつ南国情話を君とくちざさむ
五月晴れお茶の香れる知覧路に征きて還らぬ子らを偲びぬ

松永 郁代 (昭和四〇年卒)

沿道の子らのエールとハイタッチ我最高のTOKYOラン
夏休み子らのにぎはふあの頃やわが家の庭でラジオ体操

椎原 直子 (昭和四八年卒)

神前に棒打ち合いて舞ひ踊る空に響かせ豊作祈る
草いきれ子らと歩みし畦道を思い重ねる戯れし頃

(注) 俳句と短歌は前橋竹之さん(昭和二五年卒)に一部ご指導いただきました。

母校だより

昭和五〇年卒 内村哲也

この夏に母校を訪問しました。生徒の皆さんの挨拶が素晴らしいです。歩きながらではなく立ち止まり、あかるく元気な声でのあいさつ、気持ちがいいですね。
質実剛健、文武両道でがんばっている母校、応援したくなります。

進学状況

今年は、国公立大学への進学者が増え、生徒の約三分の一が国公立大進学というのは、誇れる数字です。生徒の頑張りは勿論のこと、校長先生はじめ先生方、PTA、本部同窓会の一体となった活動の成果です。

訪問した際にも自ら残って多くの生徒が自習をしていました。また短大、専門学校へも多くのみなさんが進学しています。母校の伝統「神戈陵魂」を糧に、それぞれの分野で学ぶ力をつけて、将来活躍の素地を作ること願っています。

平成27年度大学合格者数(H28 年3月卒)

国公立大	国公立短大	私立大	私立短大	文部科学省 管轄外	専門学校	就職
31(2)	3	49(3)	14	6	27	1

<内訳(新卒者)>

国公立大 22(九州工業大2、福岡教育大、鹿児島大5、宮崎大4、琉球大7など)

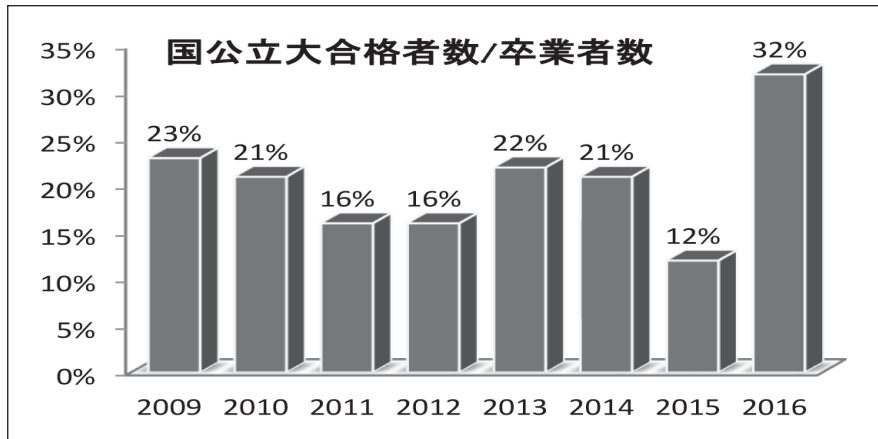
国公立短大 3(大分県立芸術文化短大3)

公立大 7(都留文科大、山口県立大、下関市立大、福岡県立大、宮崎県立看護大など)

私立大 46(学習院大、日本薬科大、近畿大3、日赤九州国際看護大、九州共立大2、九州産業大4、福岡大2、福岡工業大、日本文理大、崇城大5、鹿児島国際大14など)

部活動

部活動においても今年も様々なところで活躍しています。なぎなたは今年も強くて県高校総体で団体も個人も優勝するなど素晴らしい活躍です。水泳部、書道部、ESS部の活躍などうれしいニュースです。



平成 27 年度の部活動の主な成績

◎県大会

なぎなた部

県高校総体：団体優勝、個人1位・2位・3位、演技1位・2位

県選手権：個人1位、演技1位

県新人大会：団体優勝

個人1位 上村 2位 丸野 3位 田口 演技1位 田口・上村 2位 丸野・盛田

水泳部

春季水泳大会：女子 50m 自 3位 100m 自 3位 100m 自 3位

書道部

県高校書展：高文連賞

◎九州大会

なぎなた部：九州なぎなた協議大会出場

水泳部：全九州大会：50m 自 8位、100m 自 2位

ESS部：崇城イングリッシュチャレンジ：SILC 特別賞

◎全国大会

なぎなた部 全国高校総体出場、国体出場、若潮杯：個人2位 全国競技大会：団体3位

水泳部 全国高校総体：50m、100m 自出場、国体出場

◎鹿児島県高等学校生徒理化研究発表大会 奨励賞

化学部門 川辺の水質調査(大隣気美、五反田実果、東歩美)

生物部門 メダカの色素胞(織田籠誠、野間皓太)

◎かわなべ青の俳句大会 特別賞・学校賞



ボランティア活動
川辺高校ではボランティア活動も活発で、老人保健施設訪問や川辺二日市、祇園祭などでも活動しました。



資料室
明治三三年設立以来の高校の歴史がわかるようにと資料をきれいにまとめている部屋があります。これまでに知らなかった歴史、川辺高校のすばらしい歴史を見ることができました。みなさまも帰省等の際に立ち寄ってみてはいかがでしょうか！

事務局からのお知らせ

ホームページ開設

同窓会の目的は会員相互の親睦をはかることにあります。この目的を達成するため、よりオープンな形で会員相互のコミュニケーションを図られるように、そのツールを提供することを目指しています。これにより一人でも多くの同窓生につながりが持て、広がりが出来れば幸いです。



構成と内容

総会の様子や各種ご報告、ご連絡などを載せてまいります。

上の図：ホームページのホーム
右の図：東京同窓会について
(会長あいさつ)

下の図：お知らせ

行事・連絡等載せます
下右図：フォトギャラリー
総会等の様子を写真でお知らせします



アクセスの方法

- ① アドレス：
<http://www.kawanabe-hs-tokyo.com/>
- ② 「川辺高等学校東京同窓会」で検索してください
(まだオープンしたばかりで検索上位には出てきません)



お問合せ&リンク

- ① お問い合わせのボタンをクリックすると事務局にメールすることができます
- ② 川辺高校&川辺高校ブログにリンクします

時々、アクセスして
覗いてみてください

(事務局からのお知らせの続きはP55へ)

◆◆◆ 会 務 報 告 ◆◆◆

- 平成27年 4月11日 評議員会 於：東京しごとセンター
 議題1 第39回総会懇親会について
 第39回総会懇親会の案内状発送作業
- 5月7日 新会員（関東地区進学者）へのお祝い&記念品贈呈 役員
- 5月30日 事務局総会1ヶ月前の打合せ 於：盈進社
- 6月6日 リマインドコール実施 役員
- 6月20日 事務局1週間前の打合せ 於：盈進社
- 6月20日 薩南工業高等学校同窓会関東支部総会出席 大平会長
- 6月26日 本部同窓会・母校との交流会 於：新宿ワシントンホテル
- 6月27日 特別講演会を開催 於：新宿ワシントンホテル
 第39回総会・懇親会を開催 参加者総勢 223名
- 7月11日 吹上高等学校関東地区同窓会総会出席 大平会長
- 8月1日 役員会 於：薩摩の里にて
 議題1 第39回総会・懇親会の反省会
 議題2 会報誌「神戈陵第39号」編集会議
- 懇親会 年度幹事・役員
- 8月4日 母校へサポート募金送金 総額 250千円
- 8月22日 南さつま市関東ふるさと会総会出席 大平会長
- 9～10月 会報誌校正作業 於：盈進社 役員
- 10月3日 役員会 於：盈進社
- 10月17日 評議員会 於：東京しごとセンター
 会報誌「神戈陵第39号」の発送作業
 年会費納入依頼
- 10月18日 関東知覧会総会出席 南谷副会長
- 11月2日 母校訪問 大平会長
- 11～12月 年会費・寄付金の整理 幹事会計
- 平成28年 2月6日 役員会 於：薩摩の里
 議題1 第40回総会懇親会について
- 3月6日 関東さつま川辺会総会出席 南谷副会長
- 3月12日 役員会 於：薩摩の里
 議題1 第40回総会懇親会について

平成27年度 川辺高等学校東京同窓会 会計報告

自：平成27年4月 1日
至：平成28年3月31日



収入の部	金額	支出の部	金額
総会会費収入	1,535,000	総会関連費	1,686,809
(総会出席者) 207,000		会報誌関連費	276,476
年会費	539,000	会議費	57,091
(総会欠席者) 332,000		通信関連費	311,874
会報誌広告収入	190,000	事務用品費	11,880
寄付金(ご祝儀含)	444,000	他会出席	50,000
総会資料代(欠席者)	33,000	寄付(母校部活支援)	250,000
郵便貯金利息	95	雑費	60,052
		振込料金	38,606
前期繰越金	1,116,555	翌期繰越金	1,114,862
合 計	3,857,650	合 計	3,857,650

出席者総数 223名

内訳(会員男性 111名、会員女性 96名、学生 1名、会員外 4名、来賓者 11名)

上記の件、監査の結果相違ありません。

平成28年5月29日

会計監事 森山 昭利 
 " 菊永 道昭 

広 告 目 次

(有)蔵元商店	川野労務管理事務所
(株)尾込商店	内村哲也
(有)高良酒造	コバルト プランニング
瑞光堂	大平政弘 (昭和34年卒)
(有)梅木	昭和32年卒
五反田印刷	吉永マサ子 (昭和32年卒)
(株)加覧組	昭和34年卒有志
(株)森田建設	東京三六会 会長 迫 正敏
高田郵便局	昭和37年卒有志
(株)前野石油・前野設備	昭和38年卒有志
南日本新聞	昭和39年卒有志
医療法人 菊野会	昭和40年卒有志
南谷総合法律事務所	昭和41年卒有志
関東さつま川辺会	昭和43年卒有志
南谷洋至法律事務所	小原 信 (昭和44年卒)
シモ動物病院	峯元政公 (昭和46年卒)
ミネ・アニマル・ヘルス	昭和48年卒有志
社会福祉法人 緑が丘福祉会	昭和49年卒有志
薩摩の里	昭和50年卒有志
ビストロ ピンキオ	昭和51年卒有志
天穹俳句会	(株)盈進社

地元、川辺の名酒から県内ブランド酒まで多数取揃えております。御注文いただければ、即、発送致します。



名水百選の街川辺
南薩摩の銘酒専門
(有)蔵元商店
鹿児島県南九州市
川辺町野崎2579-2
TEL (0993)56-4566
FAX (0993)56-3939

本格焼酎 さつま **寿**

(株)尾込商店

代表取締役 尾込 宜希
〒897-0215
鹿児島県南九州市川辺町平山6855-1
電話 0993-56-0075
Fax 0993-56-0596



本格焼酎 八幡

高良酒造(有)

代表取締役 高良 武信
〒897-0214
鹿児島県南九州市川辺町宮4340
電話 0993-56-0181
Fax 0993-56-0585
お酒は20歳になってから

手づくりの技

ひとつひとつ真心込めて...



仏壇の 瑞光堂

代表取締役 原口 和秋

鹿児島県南九州市川辺町平山6842番地
(鹿児島銀行川辺支店前)
電話0993-56-1107
URL <http://www.zuikoudou.com/>
Fax 0993-56-4568
E-Mail info@zuikoudou.com

鹿児島特産

さつまあくまき

さつまあくまき本舗

有限会社 梅 木

代表取締役会長 大久保 久通
本社工場
鹿児島県南九州市川辺町平山6794
TEL(0993)56-0126(代)
FAX(0993)56-1184

☆お客様の繁栄に
貢献いたします☆

五反田印刷

鹿児島県南九州市川辺町平山6997-1
(鹿児島相互信用金庫川辺支店ヨコ)
TEL(0993) 56-0078
FAX(0993)56-3417

★今、話題のミスト美容
“YOSA(ヨサ)”を始めました!
ご予約は、お電話にてお願い致します。
YOSA PARK ベリー
TEL(0993)56-0078

地産地消のあらゆる商品を高品質、天然採石ハイル工法で住宅地盤が固まる。
HiSPEED
株式会社 加覧組
代表取締役 新谷 昭彦 (S59年卒)
〒897-0213
鹿児島県南九州市川辺町小野1184
TEL 0993-56-0321
FAX 0993-56-2173

森田建設(株)

本部同窓会 森田 剛(S43卒)
副 会 長
川辺町上山田4330
TEL.0993-57-3321
FAX.0993-57-3323

川辺町 高田郵便局

本部同窓会 高田 政雄 (S48卒)
副 会 長
川辺町高田355
TEL.0993-56-1525

JXエネルギー株式会社特約店
三井住友海上火災保険株式会社代理店

株式会社 前野石油 株式会社 前野設備

代表取締役 前野 政美

- 石油事業部 ■ガス事業部
- 車販・太陽光事業部
- 住宅関連事業部 ■損害総合保険事業部
- 車検事業部 車検・板金センター
(国土交通省運輸局指定工場 指定番号 鹿-885)

本社 〒897-0211 鹿児島県南九州市川辺町両添1026
TEL0993-56-1336(代) FAX0993-56-3983

南日本新聞

川辺中央販売所
大坪 憲市

医療法人 菊野会

整形外科・神経内科・消化器内科
リハビリテーション科・リウマチ科
介護老人保健施設
かわなべ 寿光苑
川辺訪問介護ステーション小菊
介護支援 センター
療育センターあおぞら
理事長 菊野 光
外医師・職員一同
南九州市川辺町平山三八一五
電話(五六)一一三五

南谷綜合法律事務所

弁護士 南谷 知成 (昭和36年卒)
弁護士 南谷 敦子 (長女)
弁護士 南谷 博子 (三女)
秘書 西 真由子 (平成17年卒)

〒810-0041
福岡県福岡市中央区大名1丁目8-10
福岡安藤ハザビル5F
TEL : 092-724-1113
<http://minamitani-law.jp/>

関東さつま川辺会

第27回総会は、平成29年3月12日(日)
12:00よりホテルメトロポリタンエド
モント(千代田区飯田橋)で開催致しま
す。川辺出身の方に限らず、ご縁のあ
る方々のご参加をお待ちしております。

会長 川野 博一
(川辺高昭和37年卒)

連絡先 〒181-0005 三鷹市中原3-8-30
事務局長 吉留 浩一 (0422-26-7065)

みなみにひろたか

南谷洋至法律事務所

弁護士 南谷 洋至
(昭和49年卒)
金峰町白川・阿多中出身

世界一の人生応援団長を目指しています。
いつのときも、神戈陵魂が、心の支えです。

〒810-0041 福岡市中央区大名一丁目8番12号
第二西部ビル3階・南谷洋至法律事務所
TEL 092-736-1531 FAX 092-736-1533
(川辺高校福岡同窓会事務局)

シモ動物病院

院長 霜出 幸七
(41年卒)

愛犬・愛猫の病気の予防
治療に、ご利用ください。

〒891-0113
鹿児島市東谷山3-36-11
電話 099-267-5959

ミネ・アニマルヘルス

獣医師 峯 苦 稔 三
(41年卒)

家畜の病気を予防し、安心・
安全な畜産物の生産に取り
組んでいます。

〒300-1622
茨城県利根町布川454-180
電話：090-2440-7109

伸びる芽に
水を 光を よき土を

社会福祉法人 緑が丘福祉会 緑が丘保育園 こぼとこども園

理事長 室屋 徹
園長 室屋 正枝

〒897-0215
鹿児島県南九州市市川辺町平山2522番地
TEL 0993-56-1505 FAX 0993-56-1736

先輩、後輩のみなさん高田馬場の
郷土料理+「薩摩の里」にぜひ

おじゃったもんせ!!

新宿区高田馬場4-18-10-2F
TEL 03(3363)3258 FAX 03(3350)1483
予約 40名様可能 営業時間 午後5時より午前1時まで
定休日 第1・第3日曜日 高田馬場駅徒歩5分
店主 山下由人(知覧出身、S48年卒)



オーナーシェフ 小椋 清明
経理担当 小椋 みつ子
(旧姓 小原 41年卒)

川越市脇田町17-33
Tel/Fax 049-226-4567
<http://homepage3.nifty.com/pinkio/>
東武東上線川越駅東口より2分

俳句を始めませんか!

天穹俳句会(主宰 佐々木
建成)は高浜虚子の流れを
汲み古趣創生、を旨とする
全国屈指の句会です。

月間句誌「天穹」刊行

連絡先: 大平 政弘(昭和34年卒)
電話: 045-891-0197

労働保険・社会保険・労務管理・給与計算のことなら



所長 社会保険労務士 岡 清司

社会保険労務士 有村 公美子
(平成6年卒)

〒160-0017
東京都新宿区左門町20-6 内藤ビル1階
電話: 03(3353)7755 / FAX: 03(3353)0264
E-mail: info@kawano-srj.jp
URL: <http://www.kawano-srj.jp>

相続に関するご相談!

・親子、兄弟姉妹で
争わず仲良く相続

ライフプランナー
ファイナンシャル・プランナー(日本FP協会会員)

内村 哲也
(昭和50年卒)

東京都品川区大崎1-11-1
ゲートシティ大崎ウエストタワ
ブルデンシャル生命保険株式会社
首都圏第1支社
TEL: 03-6675-9837
携帯: 090-4962-1820

コバルト プランニング

より良い未来の創造に
向けて、夢をかなえる
手助けをいたします

ストラテジスト
小原 東洋明
(昭和38年卒)

祝 東京同窓会 設立40周年！

東京同窓会の活動にご協力
いただいで感謝申し上げます。

会長 **大平 政弘**
(昭和34年卒業)

昭和32年卒は毎年 一泊旅行をしています

大坪 政彦 辻 清一郎
大坪 剛 池 満 克代
尾山 孝之 辰元 房子
中久保 正弘 小木曾 美穂
橋口 洋三 蔵元 京子
濱田 美智夫 竹下 ヒデ子
松田 哲郎

東京同窓会40周年！ 謹んでお慶び申し上げます。

東京同窓会の益々のご発展を、
故郷川辺よりご祈念申し上げます。

昭和32年卒
吉 永 マサ子 (旧姓 小原)
(川辺町在住)

祝 東京同窓会 設立40周年！

東京辰巳会(昭和34年卒業生の会)の皆さん！
同期会の申し合わせを覚えていますか？
実行していますか？

「人生は60から、心もからだも元気で、いつもに
こにこ朗らかに、感謝の気持ちで暮らします」

(平成12年11月岩屋公園にての還暦同期会)
会員 M. O

設立40周年 おめでとうございます

昭和36年卒有志
関東地区三六会同期会を計画中です
ご案内の折は多数のご参加をお願い
いたします

東京三六会会長 **迫 正敏**

祝 東京同窓会40周年!! 謹んでお慶び申し上げます。

荒殿孝洋 東京都労働保険協会
理事長
松山満芳 弁護士
高吉廣美 税理士
川野博一 一級建築士
関東さつま川辺会会長

昭和37年卒有志

祝 40周年！

卒業して半世紀、山あり谷あ
りの前半戦であったが、結構
楽しめたように思う。
人生は後半戦がもっと面白い
と言う。楽しみだ！

昭和38年卒有志

祝40周年

東京同窓会設立40周年を心よ
りお祝い申し上げますととも
に会の発展と母校の活躍を
願っております。

昭和39年卒有志

設立40周年を心より お喜び申し上げます

質実剛健の神戈陵魂を糧に走
り続けて半世紀、これからも何
かを探し求めて走り続けます

昭和40年卒有志

設立40周年を心より お喜び申し上げます

平成29年3月古稀の会を計画中
森山まで連絡下さい
(090-2665-6290)

昭和41年卒有志

東京同窓会40周年 おめでとうございます

昭和43年卒有志
椎原 和幸 木場田 文夫
高田 和明 中礼 きぬ子
佛淵 健悟 岡本 伊津子
田代 満次 参納 和子
昭和43年卒業50周年同窓会を平成30
年東京で行います。皆様ご出席くだ
さい。

東京同窓会40周年 おめでとうございます

44年卒業の皆様ご無沙汰いた
しております。お変わりござ
いませんか。皆様の益々のご
活躍をお祈り申し上げます。

昭和44年卒
小原 信 (奈良市在住)

祝40周年

思えばまだ髪の毛がフサフサだった昭和52年の初総会から参加していた私でした。
役員・評議員・(株)盈進社の皆様方の御尽力に感謝いたします。今後の東京同窓会の益々のご発展を、故郷川辺よりご祈念申し上げます。

昭和46年卒
峯元 政公

東京同窓会40周年 おめでとうございます。

年度幹事ご苦勞様でした！
60代第2の人生の幕開けです
新しい生きがいを作り出し
最高の人生を送ろう

昭和48年卒有志

設立40周年を心より お喜び申し上げます。

母校・東京同窓会の
繁栄を祈念します

昭和49年卒有志

40周年おめでとう ございます！

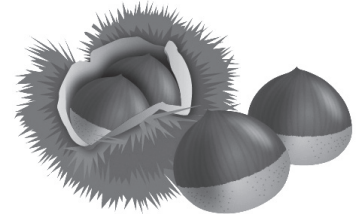
母校でのつながりで、年一回の会で懐かしい顔と出会って談笑したり、参加できない人とも心でつながっています。
今後の母校ならびに会の益々の繁栄を祈念します。

昭和50年卒有志

設立40周年心より お喜び申し上げます。

歴史と伝統の神戈陵魂に支えられ、これからも輝かしいご活躍を期待し、合わせて皆様のご健勝をお祈り致します。

昭和51年卒有志14名



知的創造

何を創るかはおまかせします。

どのように造るかをお手伝いします。

企画編集から製本まで 自費出版大歓迎!! カラー名刺・絵ハガキ・封筒・ポスター・横断幕
小部数でも安価でできます ご相談下さい。



えい しん しゃ
株式会社 盈進社

代表取締役社長 下園典子
(南さつま市金峰町出身)

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-3-2 三信ビル
TEL 03-3262-3471(代) FAX 03-5210-7226
URL : www.eishinsya.co.jp Eメール : info@eishinsya.co.jp

源泉混混として、
昼夜を舍かず。
科に盈ちて面る後に進み、
四海に放る。

(「孟子」離婁下より)

水はその源からコンコンと湧き出て、昼も夜も休むときがない。しかも流れは、窪みがあれば、まずその穴を満たして後、溢れ出て四海まで進む。その様はあたかも根本を内に養って、しかる後に活動する人の姿に以ている

第40回 川辺高等学校東京同窓会 総会・懇親会出席者ご芳名

(日時：平成28年6月18日 場所：新宿ワシントンホテル
出席者：ご来賓 15名 同窓生 182名(重複2名) 総数 195名)

1. ご来賓

No.	氏名	敬称	役職
1	大坪 憲市	様	川辺高等学校同窓会 会長
2	東郷 孝仁	様	川辺高等学校 校長
3	渡辺 裕介	様	川辺高等学校 教諭
4	鱒坂 政弘	様	川辺高等学校 恩師
5	川口 京子	様	40周年記念特別コンサート 歌手
6	長谷川 芙佐子	様	40周年記念特別コンサート ピアニスト
7	泊 昭八郎	様	居合道演武者
8	宮内 俊彦	様	吹上高等学校関東地区同窓会 会長
9	山崎 幸雄	様	薩南工業高等学校同窓会関東支部 常任幹事長
10	川野 博一	様	関東さつま川辺会 会長
11	吉留 浩一	様	関東さつま川辺会 副会長
12	尾曲 正孝	様	関東知覧会 副会長
13	品野 千草子	様	関東知覧会 副幹事長
14	鳥井口 清信	様	南さつま市関東ふるさと会 会長
15	下園 典子	様	(株)盈進社 社長 川辺高等学校東京同窓会事務局

2. 同窓生出席者名 (敬称略)

No.	氏名	旧姓	卒業年度
1	近藤 嘉男		昭和20年
2	田口 精一		昭和23年
3	有馬 力		昭和25年
4	寺蘭 方晴		昭和25年
5	馬場 雄幸		昭和25年
6	平峯 哲郎		昭和25年
7	松田 健三郎		昭和25年
8	森田 健三		昭和25年
9	松山 國治		昭和27年
10	君野 満明		昭和27年
11	蔵元 幸男		昭和27年
12	桑畑 繁貞		昭和27年
13	竹迫 茂則		昭和27年
14	地頭蘭 定浩		昭和27年
15	西元 睦雄		昭和27年
16	都田 和男		昭和27年
17	有園 道治		昭和27年
18	松山 繁夫		昭和27年
19	峰元 研二		昭和27年
20	亀甲 泰雄		昭和28年
21	有園 工ツ	原口	昭和28年
22	石山 道	有蘭	昭和28年
23	川口 佳子		昭和28年
24	浜田 淳子		非会員
25	山下 宣博		昭和29年
26	井料 和彦		昭和30年
27	砂走 重行		昭和30年
28	辰野 格一		昭和30年
29	唐仁原 洵		昭和30年
30	中蘭 繁男		昭和30年
31	松久保 直丈		昭和30年

No.	氏名	旧姓	卒業年度
32	南 二郎		昭和30年
33	函師田 俊一		昭和30年
34	上村 シヅエ	並木	昭和30年
35	江森 恭子	中迎	昭和30年
36	大坪 剛		昭和32年
37	大坪 政彦		昭和32年
38	尾山 孝之		昭和32年
39	中久保 正弘		昭和32年
40	東 益三		昭和32年
41	松田 哲郎		昭和32年
42	辻 清一郎		昭和32年
43	池満 克代	宮下	昭和32年
44	小木曾 美穂	下永田	昭和32年
45	蔵元 京子	稲森	昭和32年
46	久保下 芳郎		昭和33年
47	桑畑 繁弘		昭和33年
48	本田 忠雄		昭和33年
49	南 健蔵		昭和33年
50	南 善治		昭和33年 No.
51	足立 芙美子	上之園	昭和33年
52	石川 貞子	清永	昭和33年
53	牛尼 睦子	隈元	昭和33年
54	笈川 絹子	二木	昭和33年
55	目黒 弘子	田中	昭和33年
56	馬場 社一		昭和33年
57	板坂 政治		昭和34年
58	大平 政弘		昭和34年
59	木場田 徹		昭和34年
60	志摩 省三郎		昭和34年
61	内匠 正昭		昭和34年
62	泊 昭八郎		昭和34年

No.	氏 名	旧姓	卒業年度
63	齋 京 子	萩原	昭和34年
64	辰 野 美 沙子	内倉	昭和34年
65	千 葉 美 代子	四反田	昭和34年
66	七 井 紀 子	西	昭和34年
67	西 元 マサ子	山下	昭和34年
68	田 中 聖 子		昭和34年
69	泉 源 一郎		昭和35年
70	下堂 菌 勝 久		昭和35年
71	中 菌 達 朗		昭和35年
72	萩 原 辰 馬		昭和35年
73	橋 口 哲 郎		昭和35年
74	深 町 泰 治		昭和35年
75	前 田 征 雄		昭和35年
76	山 口 正 明		昭和35年
77	伊 藤 昌 子	畠野	昭和35年
78	門 田 照 美	尾松	昭和35年
79	辰 野 テル工	宇都	昭和35年
80	松 本 久美子	島田	昭和35年
81	上久保 進		昭和36年
82	囃 師 田 剛		昭和36年
83	前 田 眞 幸		昭和36年
84	南 谷 亘 英		昭和36年
85	川 村 敦 代	中村	昭和36年
86	桜 沢 洋 子	今村	昭和36年
87	有 菌 充 裕		昭和37年
88	川 野 博 一		昭和37年
89	高 吉 廣 美		昭和37年
90	大 平 キヨ子	徳田	昭和37年
91	小 原 東洋明		昭和38年
92	蔵 元 義 弘		昭和38年
93	堂 園 俊 秋		昭和38年
94	松 山 勇		昭和38年
95	井 上 のり子	有村	昭和38年
96	田 中 千恵子	宇都	昭和38年
97	鳥 海 睦 子	赤崎	昭和38年
98	木 村 公 紀		昭和39年
99	椎 原 健 郎		昭和39年
100	井之口 アヤ子	上久保	昭和40年
101	深 井 麗 子	金田	昭和40年
102	松 永 郁 代	室屋	昭和40年
103	森 山 昭 利		昭和41年
104	井 尻 啓 子	三宅	昭和41年
105	緒 方 むつ子	山下	昭和41年
106	尾 辻 紀 予子	国生	昭和41年
108	佐 多 ふく子	千田	昭和41年
109	霜 出 節 子	難波	昭和41年
110	田 島 多嘉子	小野	昭和41年
111	並 木 すみ子		昭和41年
112	橋 本 起世子	橋本	昭和41年
113	峯 苦 稔 三		昭和41年
114	椎 原 和 幸		昭和43年
115	岡 本 伊 津子	蔵元	昭和43年
116	参 納 和 子	内門	昭和43年
117	宮 下 妙 子	木原	昭和43年
118	有 馬 洋 二		昭和44年
119	佐 藤 妙 子	有水	昭和44年
120	有 菌 茂 矢		昭和45年
121	川 原 修 二		昭和45年
122	菊 永 道 昭		昭和45年
123	四反田 義 美		昭和45年

No.	氏 名	旧姓	卒業年度
124	下 菌 俊 昭		昭和45年
125	原 口 泰 広		昭和45年
126	矢 島 寿 史		昭和45年
127	足 立 玲 子	門之園	昭和45年
128	杉 山 直 子	六反田	昭和45年
129	碓 千津子	福永	昭和45年
130	福 元 勇 次		昭和45年
131	川 原 重 弘		昭和46年
132	下 菌 公 二		昭和46年
133	小 菌 幸 明	小菌	昭和46年
134	高 倉 都	東	昭和46年
135	森 川 和 江	前野	昭和46年
136	大 重 保 子		昭和47年
137	片 平 英 一		昭和47年
138	鎌 迫 妙 子	佃	昭和47年
139	後 藤 公 子	福永	昭和47年
140	斉 藤 眞智子	桑水流	昭和47年
141	菌 田 純 子		昭和47年
142	高 田 政 雄		昭和48年
143	五反田 直 一		昭和48年
144	新 原 誠		昭和48年
145	島 田 修 一		昭和48年
146	松 園 憲 治		昭和48年
147	山 下 由 人		昭和48年
148	山 本 朗		昭和48年
149	大 広 律 子	東	昭和48年
150	奥 和 代	橋口	昭和48年
151	小 城 涼 子	山之内	昭和48年
152	佐 多 鈴 代	宇都	昭和48年
153	椎 原 直 子	高良	昭和48年
154	富 岡 祥 子	岩脇	昭和48年
155	有 馬 正 史		昭和49年
156	木 落 博 美		昭和49年
157	蔵 元 明 洋		昭和49年
158	蔵 元 泰 洋		昭和49年
159	内 村 哲 也		昭和50年
160	加 瀬 美千代	辻	昭和50年
161	内 村 芳 朗		昭和51年
162	川 原 満 年		昭和51年
163	石 井 眞 弓	山之内	昭和51年
164	大 川 まり子	肥後	昭和51年
165	下之菌 ルリ子		昭和51年
166	高 橋 和 代	川原	昭和51年
167	丹 羽 公 子	木場	昭和51年
168	和 田 みどり	庵下	昭和51年
169	中 原 信 寛		昭和52年
170	小金園 明 美	水流	昭和52年
171	下 澤 孝 子	加藤	昭和52年
172	野 中 ゆかり	庭月野	昭和52年
173	田 中 勝 之		昭和56年
174	上 原 和 之		昭和57年
175	松 村 賢 志		昭和62年
176	上 塩入 浩 一		昭和63年
177	有 村 公美子		平成06年
178	下 園 正 浩		平成06年
179	小 菌 弘 伸		平成09年
180	松久保 紗 弥		平成27年
181	山 下 蒼 介		平成27年
182	藤 崎 竜 成		平成28年

第 39 期～第 40 期 役員名簿

役職名	氏名	卒業年度
会長	大平 政弘	昭和 34 年
副会長	南谷 亘英	昭和 36 年
	川村 敦代	昭和 36 年
	小原 東洋明	昭和 38 年
	橋本 紀世子	昭和 41 年
	川原 修二	昭和 45 年
	椎原 直子	昭和 48 年
兼任幹事長	小原 東洋明	昭和 38 年
副幹事長	内村 哲也	昭和 50 年
事務局長	中原 信寛	昭和 52 年
副事務局長	林 昭子	昭和 50 年
	田中 勝之	昭和 56 年
事務局員	上塩入 浩一	昭和 63 年
	中藺 雅晴	平成 02 年
	有村 公美子	平成 06 年
会計監事	森山 昭利	昭和 41 年
	菊永 道昭	昭和 45 年
幹事会計	岡本 伊津子	昭和 43 年
	蔵元 明洋	昭和 49 年
顧問	中釜 作治	昭和 24 年
	鯨坂 悟郎	昭和 32 年
相談役	安田 耕作	昭和 22 年

役職名	氏名	卒業年度
幹事	石山 道	昭和 28 年
	上村 又一郎	昭和 29 年
	辰野 格一	昭和 30 年
	大坪 剛	昭和 32 年
	板坂 政治	昭和 34 年
	千葉 美代子	昭和 34 年
	畠野 修一	昭和 36 年
	大渡 義子	昭和 36 年
	荒殿 孝洋	昭和 37 年
	川野 博一	昭和 37 年
	松山 満芳	昭和 37 年
	堂園 俊秋	昭和 38 年
	鳥海 睦子	昭和 38 年
	木村 公紀	昭和 39 年
	松永 郁代	昭和 40 年
	深井 麗子	昭和 40 年
	高倉 都	昭和 46 年
	川平 悦郎	昭和 47 年
	内原 健一	昭和 48 年
	中藺 幸男	昭和 50 年
	下之藺ルリ子	昭和 51 年
	渡辺 淳子	昭和 52 年
	樋渡 信也	昭和 55 年

第 39 期～第 40 期 評議員名簿

氏名	年度
有園 エツ	昭和 28 年
小結 武子	昭和 29 年
辰野 格一	昭和 30 年
図師田 俊一	昭和 30 年
有木 日命子	昭和 30 年
橋口 修	昭和 31 年
五反田 洋子	昭和 31 年
蔵元 京子	昭和 32 年
有村 彬	昭和 33 年
本田 忠雄	昭和 33 年
足立 美美子	昭和 33 年
志摩 省三郎	昭和 34 年
泊 昭八郎	昭和 34 年
西元 マサ子	昭和 34 年
今村 泰之	昭和 35 年
下堂藺 勝久	昭和 35 年
庭月野 優侑基	昭和 36 年
桜沢 洋子	昭和 36 年
上之 温代	昭和 38 年

氏名	年度
椎原 健郎	昭和 39 年
関口 和代	昭和 39 年
新谷 哲男	昭和 40 年
井之口 アヤ子	昭和 40 年
唐仁原 三郎	昭和 41 年
和田 正一	昭和 41 年
井尻 啓子	昭和 41 年
緒方 むつ子	昭和 41 年
佐多 ふく子	昭和 41 年
西宮 起世子	昭和 41 年
佐多 寛文	昭和 42 年
福永 義忠	昭和 42 年
石原 恵美子	昭和 42 年
黒田 ミキ	昭和 42 年
椎原 和幸	昭和 43 年
参納 和子	昭和 43 年
宮下 妙子	昭和 43 年
佐藤 妙子	昭和 44 年
矢島 寿史	昭和 45 年

氏名	年度
東 孝二	昭和 45 年
杉山 直子	昭和 45 年
裕 千津子	昭和 45 年
川原 重弘	昭和 46 年
中井 尚文	昭和 46 年
徳永 愛子	昭和 46 年
難波 明子	昭和 46 年
森川 和江	昭和 46 年
後藤 公子	昭和 47 年
蔵元 泰洋	昭和 49 年
石井 真弓	昭和 51 年
大川 まり子	昭和 51 年
橋本 あい子	昭和 52 年
渡邊 淳子	昭和 52 年
小藺 弘伸	平成 09 年
下山 理恵子	平成 09 年

第40回総会・懇親会風景



来訪を待ち受ける余裕の役員諸氏



早朝から受付の準備中 年度幹事



ご挨拶 大平会長



コンサート司会を務める椎原氏



花束贈呈 下之蘭氏



歌手 川口京子氏



居合道演武 泊昭八郎氏



総合司会を務める山本、椎原の両氏

第40回総会・懇親会風景



感謝状贈呈 下園氏と大平会長



総会での報告 役員諸氏



ご挨拶 川辺高校東郷校長



ご挨拶 本部同窓会大坪会長



輪になって踊る同窓生



乾杯 田口氏



閉会挨拶 南谷副会長



万歳三唱 君野氏



校歌斉唱

われら神戈陵同窓生



昭和25年



昭和20年 昭和23年



昭和30年



昭和27年



昭和33年



昭和32年



昭和35年



昭和41年

われら神戈陵同窓生



昭和50年、51年、52年



昭和28年



昭和45年



昭和37年



昭和36年、昭和37年、昭和43年



昭和40年、昭和44年、昭和47年



昭和38年



昭和52年

われら神戈陵同窓生



昭和46年



昭和49年



昭和34年



昭和48年、鯨坂先生



早朝から詰める 役員、年度幹事



昭和57年～平成28年



コンサート会場風景



万歳三唱

神戈陵アーカイブ 目次

第三一号 (発行日	平成19年11月3日)	46
第三二号 (発行日	平成20年11月2日)	47
第三三号 (発行日	平成21年10月31日)	48
第三四号 (発行日	平成22年10月24日)	49
第三五号 (発行日	平成23年10月29日)	50
第三六号 (発行日	平成24年10月28日)	51
第三七号 (発行日	平成25年10月26日)	52
第三八号 (発行日	平成26年10月18日)	53
第三九号 (発行日	平成27年10月17日)	54

(日) 平成27年(2015)10月31日

神 戈 陵

第33号

第33回 創立百十周年に向け 神戈陵魂一つに!



田代 英樹

「創立百十周年を迎えるにあたり、創立以来の歴史を振り返ると、先人の志を継ぎ、神戈陵魂を一つにするための努力が、今日まで続いている。今後も、神戈陵魂を一つにし、神戈陵の発展に貢献してまいります。」



最高学長の遠矢英夫氏

創立百十周年を 意義あるものに

「創立百十周年を迎えるにあたり、創立以来の歴史を振り返ると、先人の志を継ぎ、神戈陵魂を一つにするための努力が、今日まで続いている。今後も、神戈陵魂を一つにし、神戈陵の発展に貢献してまいります。」



副校長の藤原 修氏



第 33 号

発行所 神戈陵 発行日 平成27年10月31日

編集者 藤原 修 印刷所 株式会社印刷センター

平成20年度 平成年度 平成年度 平成年度 平成年度 平成年度

年度	男女	人数	平均	男女	人数	平均	男女	人数	平均	男女	人数	平均	男女	人数	平均			
平成20年度	男	1,234	15.2	女	1,123	14.8	男	1,345	16.1	女	1,234	15.5	男	1,456	17.0	女	1,345	16.5
平成年度	男	1,567	18.3	女	1,456	17.8	男	1,678	19.2	女	1,567	18.7	男	1,789	20.1	女	1,678	19.6



田代 英樹

「創立百十周年を迎えるにあたり、創立以来の歴史を振り返ると、先人の志を継ぎ、神戈陵魂を一つにするための努力が、今日まで続いている。今後も、神戈陵魂を一つにし、神戈陵の発展に貢献してまいります。」

役員名簿

役職	氏名	所属
会長	田代 英樹	神戈陵
副会長	藤原 修	神戈陵
幹事	山田 太郎	神戈陵
会計	鈴木 一郎	神戈陵
庶務	高橋 三郎	神戈陵

関東ぎつ川辺会

「石炭からつくられる化学合成物質を原料にしない」
「環境にやさしい」
「健康にやさしい」
TEL: 046-849-4114

先年の34回総会は

「石炭からつくられる化学合成物質を原料にしない」
「環境にやさしい」
「健康にやさしい」
TEL: 046-849-4114

先年、後輩のみさん高田馬場の郷土料理主「ごちそうの里」にぜひおじゃこませ!!

TEL: 046-849-4114

第三号概要

第三三回総会の様子

内原健一 (昭和四八年卒)

創立百十周年を意義あるものに

髭坂悟郎 (昭和三二年卒)

(東京同窓会会長)

創立百十種念を迎えて

前野政美 (昭和三〇年卒)

(本部同窓会会長)

ごあいさつ

川辺高校校長 神田芳文

我が心のふるさと川辺
恩師 角園征治

川辺高校のこと

恩師 松崎典和

特別講演 大八木廣人

「映画監督四一年の四方山話」
小澤啓一 (昭和二七年卒)

想うこと

本田雄郎 (昭和二七年卒)

(東京同窓会全会長)

前橋松造 (昭和二五年卒)

桜島よ、細く噴け!

後援: 東京同窓会全会長

陵友だより

中禮俊則 (昭和二七年卒)

目黒弘子 (昭和三三年卒)

大渡義子 (昭和四六年卒)

堂園俊秋 (昭和三八年卒)

中園建一 (昭和四四年卒)

中原信寛 (昭和五二年卒)

担当年度幹事から

森山昭利他 (一) (昭和四一年卒)

下園浩二 (昭和四六年卒)

塗木義武他六 (昭和五一年卒)

母校だより

峯元政公 (昭和四六年卒)

部活動を通して見つけた大切な心

常にかがベスト

進路状況

陵寿会は第三三回総会を開催

大倉野貞俊 (昭和二五年卒)

事務局からのお知らせ

小原東洋明 (昭和三八年卒)

峯元政公 (昭和四六年卒)

新役員紹介

年会費入金者数一覧表

会務報告・会計報告

大塚和代様計報

編集後記



第 34 号

発行所 川辺高等学校校長会
編集発行人 藤原 昌彦
発行日 平成28年10月24日
印刷所 株式会社 楽通社
〒103-3282 3471

第34号 神 戈 陵 平成22年(2010)10月24日 (15)

創立110周年記念式典のお知らせ
お友達をお誘いの上是非出席してください。

日時：平成22年11月13日(土曜日)
場所：川辺高等学校及びヒロセ

行事

- 亡師亡友慰霊祭：8時30分～9時00分 [川辺高等学校]
 - 記念式典：9時30分～10時40分 同上
 - 記念講演会：10時40分～12時00分 同上
 - 移動：有馬勉氏(昭和43年卒、元鹿児島県教育委員会教育次長)
 - 感謝状贈呈式：13時00分～13時10分 [ヒロセ](川辺町岡途)
 - 記念祝賀会：13時10分～15時30分 同上
- 会費3,000円

最後の世話役
大倉野真俊氏の逝去



十三面は後葬会の閉会
記事を書いていただいた
発行を待たずして、十月
八日水曜に逝されました。
九月中旬には事務局へ
メールが届きその内容は、

編集後記

今年、全国的に猛暑が続き、東
京では夏の日7日の記録を更新しま
した。また、小惑星探査機「はやぶ
さ」が7年間の宇宙の旅から地球に
帰還し、小惑星「イトカワ」から採
取した土壌サンプルの入ったアプセ
ルをオーストラリアに落下させたの
任務を終えました。東京・西鹿見局
間を走っていた寝台特急「はやぶ
さ」も昨年の3月に東北新幹線は
やがさ」が運行します。

一心脈大動脈弁狭窄症で大動脈弁を
人工弁に交換する手術をしますが
この手術を終え、又の四歳、母の89
歳を越えるべく後10年は生きたいと
手術を決め、元気に元気で美味し
い焼酎を飲み、のんびりとま
す」と。ヶ月からす、四歳の生
涯を閉じられた。ただならぬ後葬会の
催事、運営のお世話役に感謝申し上
げ、ご冥福をお祈りするはかりです。
事務局 下園典子

3版の見聞からA4版の冊子に変
えられた。今まで慣れ親しんだ様式
と違って読みづらい方がいらつしや
ると思いますが、ご容赦の程お願い
申し上げます。母校便りコーナーで
は、生徒たちのボランティア活動を
掲載しましたので是非生徒のご活躍
をご覧ください。11ページの進路状
況から専門学校へ進む生徒の割合が
全体の22%と多く普通科以外の科を
設置してはどうでしょうか。
編集者 小原(38年卒)、島海(38
年卒)、推原(48年卒)、藤元明(49
年卒)、中原(52年卒)、橋渡(55年
卒)、田中(56年卒)

第三四号概要

第三四回総会の様子

峯元政公(昭和四十六年卒)

創立百十周年を再出発の年に

鱒坂悟郎(昭和三二年卒)
(東京同窓会会長)

存続をかけた挑戦の年

前野政美(昭和三〇年卒)
(本部同窓会会長)

百十周年記念式典迫る

川辺高校校長 神田芳文

川辺と私 恩師 原田マヌミ

文武両道の川辺在校生に学ぶ

恩師 中村典生

特別講演

「イギリスから見た薩英戦争」
大八木廣人

故川野重任名誉会長を偲んで

安田 至(昭和二五年卒)

故室屋数盛顧問を偲んで

篠田徹男(昭和二五年卒)

陵友だより

四師田俊一(昭和三〇年卒)

参納和子(昭和四三年卒)

足立玲子(昭和四五年卒)

岡野信久(昭和四六年卒)

下山理恵子(平成〇九年卒)

担当年度幹事から

佐多寛文他五(昭和四二年卒)

下園浩二(昭和四六年卒)

中原信寛他五(昭和五二年卒)

母校だより

小原東洋明(昭和三八年卒)

峯元政公(昭和四六年卒)

千葉国体

進路状況

ボランティア活動

老人ホームでの演奏会

最終回となる第三(二)回陵寿会

大倉野貞俊(昭和二五年卒)

事務局からのお知らせ

小原東洋明(昭和三八年卒)

峯元政公(昭和四六年卒)

新役員紹介

年会費入金者数一覧表

会務報告・会計報告

編集後記

大倉野貞俊氏逝去

下園典子



第35号

神 戈 陵

平成23年(2011)10月29日 (11)

平成22年度 会務報告

5月15日 事務局総会(1)・11月10日 行方不明者(同窓会)事務局(1)...

中事務からのお知らせ
「会報誌を貴校の送付下さい」
当会の取組状況は年々困難の度を増しており、早急な対策が求められています...

Table with columns: 年度, 会費, 入会, 退会, 欠会, 合計. Rows for 平成22年度卒業生 and 平成22年度入会者.

平成22年度 川辺高等学校東京同窓会 会計報告

Table with columns: 収入の部, 金額, 支出の部, 金額. Rows for 経費収入, 経費支出, etc.

出席者数 102名
内訳(役員男性 98名、役員女性 4名、準役員 4名、準役員 16名)

編集後記
東日本大震災以降、同窓会第一の要務は、被災者への支援と、被災地の復興支援...

第35号 発行所 川辺高等学校東京同窓会 編集発行人 総版 信部
発行日 平成23年10月29日 印刷所 株式会社 益通社 〒03(326)3471



第三五号概要

第三五回総会の様子

南谷巨英 (昭和三六年卒)

母校活性化の為に

髭坂悟郎 (昭和三二年卒)

会長就任の挨拶

大坪憲市 (昭和四一年卒)

絆と共に

川辺高校校長 宮園秀昭

なぎなたに携わつて六十年

恩師 黒川久子

特別講演

生けるを支える

下之薮ルリ子 (昭和五一年卒)

本田雄郎前会長を偲んで

中禮俊則 (昭和二八年卒)

畏友大倉野貞俊氏を偲ぶ

篠田徹男 (昭和二五年卒)

陵友だより

吉見晃武 (昭和二五年卒)

高崎強 (昭和四四年卒)

宇都陸海 (昭和三六年卒)

仏淵健悟 (昭和四五年卒)

石井真弓 (昭和五一年卒)

担当年度幹事から

昭和四三年卒

椎原和幸

高田和明

木場田文夫

参納和子

中田又三子

昭和四六年卒

母校だより

小原東洋明 (昭和三八年卒)

峯元政公 (昭和四六年卒)

創立一〇周年

記念事業の報告

創立一〇周年

事業募金状況

生徒会活動(メダカの放流)

二二年度大学合格者数

事務局からのお知らせ

小原東洋明 (昭和三八年卒)

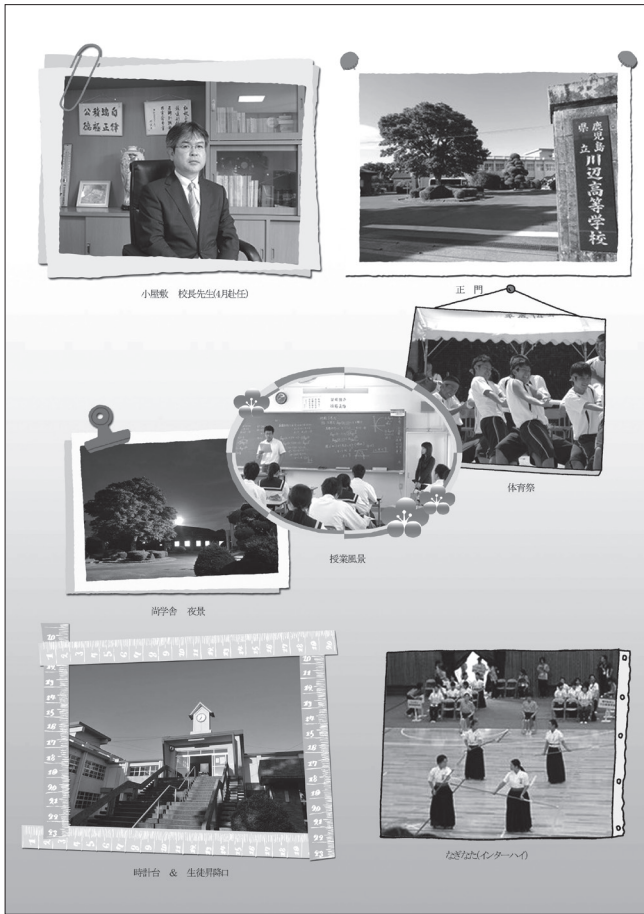
峯元政公 (昭和四六年卒)

新役員紹介

年会費入金者数(一覧表)

会務報告 会計報告

編集後記



第三十七号概要

陵友だより

白石晃三 (昭和一九年卒)

中禮俊則 (昭和二七年卒)

川野博一 (昭和三七七年卒)

安田耕作 (昭和二二年卒)

上之温代 (昭和三八年卒)

木村公紀 (昭和三九年卒)

木場田文夫 (昭和四三年卒)

加治佐学 (昭和四五年卒)

福元勇次 (昭和四五年卒)

加瀬美千代 (昭和五〇年卒)

渡辺淳子 (昭和五〇年卒)

満留尚美 (昭和五四年卒)

有村公美子 (平成〇六年卒)

西雅史 (平成二四年卒)

担当年度幹事から

昭和四六年卒

矢島寿史

母校だより

小原東洋明 (昭和三八年卒)

優良PTA・国民体育大会

神戈陵教育振興会

事務局からのお知らせ

小原東洋明 (昭和三八年卒)

新役員紹介

東京同窓会の課題

会務報告・会計報告

編集後記

第三七回総会の様子

小原東洋明 (昭和三八年卒)

新会長就任の挨拶

大平政弘 (昭和三四年卒)

(東京同窓会会長)

川辺高校発展のため

絶大なるお力添えを

大坪寛市 (昭和四一年卒)

(本部同窓会会長)

受け継がれゆく思いに寄せて

川辺高校校長 小屋敷浩昭

あの英単語今でも覚えています

恩師 馬渡武弘

東京同窓会会長退任に

あたって

鯉坂悟郎 (昭和三二年卒)

東京同窓会によせて

辰元房子 (昭和三二年卒)

感謝状に感激

足立芙美子 (昭和三三年卒)

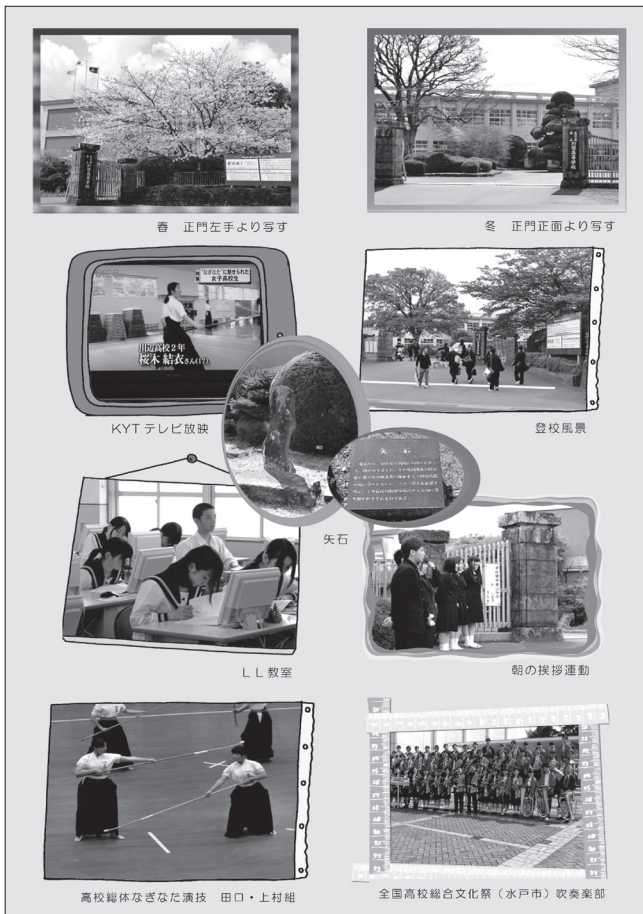
一八年前の思い出

峯元政公 (昭和四六年卒)

特別公演

一〇〇歳を生きる人達

岡野信久 (昭和四六年卒)



春 正門左手より写す

冬 正門正面より写す

KYTテレビ放映

登校風景

矢石

朝の挨拶運動

L.L教室

高校総体なぎなた演技 田口・上村組

全国高校総合文化祭(水戸市)吹奏楽部



第38号

○発行所 川辺高等学校東京同窓会 ○編集発行人 大平 政弘

○発行日 平成28年10月18日

○印刷所 株式会社 盈進社 ☎03(3262)3471

写真 樋口 教頭先生

第三八号概要

第三八回総会の様子

堂園俊秋 (昭和三十八年卒)

母校と同窓会の活性化の為に

大平政弘 (昭和三十四年卒)

(東京同窓会会長)

母校の響きに復活の萌し

大坪憲市 (昭和四一年卒)

(本部同窓会会長)

「一枚の禁書」

川辺高校校長 小屋敷浩昭

立ち止まってあいさつ

恩師 馬渡武弘

特別講演

『アジアの相互依存関係の

変化と日本の行方』

日本経済大学大学院教授

叶 芳和 先生

陵友だより

田口精一 (昭和三三年卒)

篠田徹男 (昭和二五年卒)

有馬力 (昭和二五年卒)

砂走重行 (昭和三〇年卒)

椎原祐一 (昭和三四年卒)

本田昌平 (昭和四〇年卒)

森山昭利 (昭和四一年卒)

小椋みつ子 (昭和四一年卒)

内村哲也 (昭和五〇年卒)

満留辰郎 (昭和五四年卒)

上原和幸 (昭和五七年卒)

松村賢志 (昭和六二年卒)

中菌雅晴 (平成〇二年卒)

才田和代 (平成〇六年卒)

担当年度幹事から

下園浩二 (昭和四六年卒)

母校だより

小原東洋明 (昭和三八年卒)

全国高校総合文化祭

全国高校総体出場

全国高校総体出場

高校野球県大会

進学指導

高校生国際協力

事務局からのお知らせ

小原東洋明 (昭和三八年卒)

財務盤強化

母校サポート

会務報告 会計報告

編集後記



第三九号概要

第三九回総会の様子

堂園俊秋 (昭和三十八年卒)

母校の発展と同窓会

大平政弘 (昭和三十四年卒)
(東京同窓会会長)

母校まで徒歩三分川辺高校近くに九一室のAZホテルが開業

大坪寛市 (昭和四一年卒)
(本部同窓会会長)

「未完成であること」

川辺高校校長 小屋敷浩昭

びつくりの連続

恩師 下茂道人

特別講演

『年金のおはなし』

有村公美子 (平成〇六年卒)

陵友だより

田口精一 (昭和二三年卒)

鶴園恭弘 (昭和三四年卒)

足立玲子 (昭和四五年卒)

上塩入浩一 (昭和六三年卒)

川原満年 (昭和五一年卒)

三宅保弘 (昭和五四年卒)

山下蒼介 (平成二七年卒)

有菌茂矢 (昭和四五年卒)

担当年度幹事から

下園浩二 (昭和四六年卒)

母校だより

南谷豆英 (昭和三六年卒)

小原東洋明 (昭和三八年卒)

川辺高校概況

部活動抜粋

事務局からのお知らせ

小原東洋明 (昭和三八年卒)

寄付の御礼

平均年齢は六九才

総会懇親会の報告と課題

年会費納入のお願い

新役員紹介(第三九期～四〇期)

会務報告 会計報告

編集後記

新規会員発掘のお願い

二〇年間毎の会員分布を見ると、昭和三〇年卒以前が二二%、昭和三十一年卒から昭和五〇年卒が六五%、昭和五十一年卒から平成〇七年が一一%、平成〇八年卒から平成二七年卒が二%となっております。昭和五〇年代以降の同窓生の消息が把握出来ていません。このまま推移すれば一〇年後二〇年後には壊滅的な状況になります。只今から即刻その対策に乗り出さなければなりません。

役員会ではホームページを開設いたしました。会員相互のコミュニケーションを広く、輪を広げ、会員獲得に繋げていきたいと考えています。

一方、最も効果的と思われるのが、既存会員の皆様のご兄弟・親戚・故郷のご近所だった同窓生のご消息を事務局にお知らせ頂き、そこから輪を広げていくことだと思います。ぜひとも新規会員発掘にご協力をお願い申し上げます。

年会費納入のお願い

東京同窓会は会員の皆様からの会費(年間一〇〇〇円)で運営されています。これまで会報誌送付時に振込用紙を同封していましたが、諸般の事情により、今年度より総会案内状送付時に振込用紙を同封し、納入をお願いすることとなりました。

現時点で年会費納入者は延べ人数五一〇名となっております。会員の凡そ半数となります。年会費納入が済まない方は、会報誌受け取り時点で是非納入頂きますようお願い致します。

第41回 総会・懇親会のご案内
来年度の総会・懇親会のご案内です

- (1) 日時 平成29年6月3日(土)
- (2) 場所 新宿ワシントンホテル

趣向を凝らし、お待ち申し上げます
卒業年度末尾9の付く年度の皆さん
年度幹事の年です ご協力お願いします

編集後記

事務局長 中原信寛
(昭和五二年卒)

故郷から千二百キロメートル離れて暮らしている。

近づいたり遠ざかったりしたこともあったが、今は初めて故郷から離れて暮らした同じ場所にいる。

いつの間にか東京にいる時間のほうが長くなり故郷で暮らした倍以上の時間が過ぎていく。

いつかは第二の故郷になるのだろうか。

四十年前の旅立ちの日に父に聞かれた。

「なぜ、田舎を離れて都会に出るのか」
あの時もそして今でもその問いに答えてはいない。

ぼっけもんがこの地にしがみついているその理由は、東京には無く鹿児島にあるのではないか。

鹿児島には限りない遠心力と変わらぬ引力があると思う。

父にも母にも自分にすら上手く説明することは出来ない。

頑張る気持ちを失わないように故郷を思う心を忘れないように遠く離れていても長く離れていても繋がる力が働いている。

一年に一度だけ東京に鹿児島「飛び地」が現れます。

来年は六月三日(土) 十一時から新宿ワシントンホテルです。

わずか四時間半でも、ぜひいらしてください。

山も畑も田んぼも見えませんが。

親族・近所が総出して稲刈りをしてむしろを敷いて世代を越えて呑み食い語り合ったあの時の風景そのままです

編集者

- 南谷 川村 堂園 鳥海 小原
- 深井 松永 森山 峯苦 橋本
- 岡本 高倉 椎原 蔵元 内村
- 林 下之蘭 中原 田中 上塩入
- 菊永



川辺高校 矢石

第40号

題字 西 春彦 著

○発行所 川辺高等学校東京同窓会

○発行日 平成 28 年 10 月 29 日

○編集発行人 大平 政弘

○印刷所 株式会社 盈進社 ☎03(3262)3471